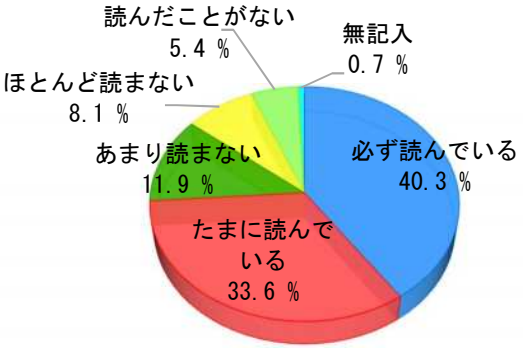
# 第３章　集計結果 ※構成比は、小数点以下第２位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

## １　広報事業について

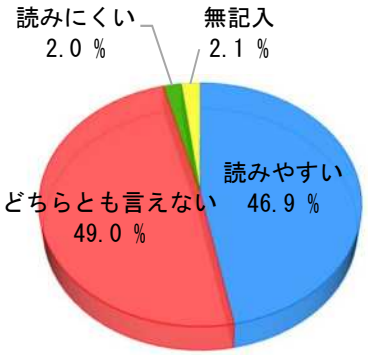
問１　「市報いしのまき」を読んでいますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 必ず読んでいる | 445 名 | 40.3 % |
| 2 | たまに読んでいる | 371 名 | 33.6 % |
| 3 | あまり読まない | 131 名 | 11.9 % |
| 4 | ほとんど読まない | 89 名 | 8.1 % |
| 5 | 読んだことがない | 60 名 | 5.4 % |
| | 無記入 | 8 名 | 0.7 % |




問２　問１で「１．必ず読んでいる」「２．たまに読んでいる」と回答した方にお聞きします。
「市報いしのまき」は読みやすいですか。１つ選んでください。

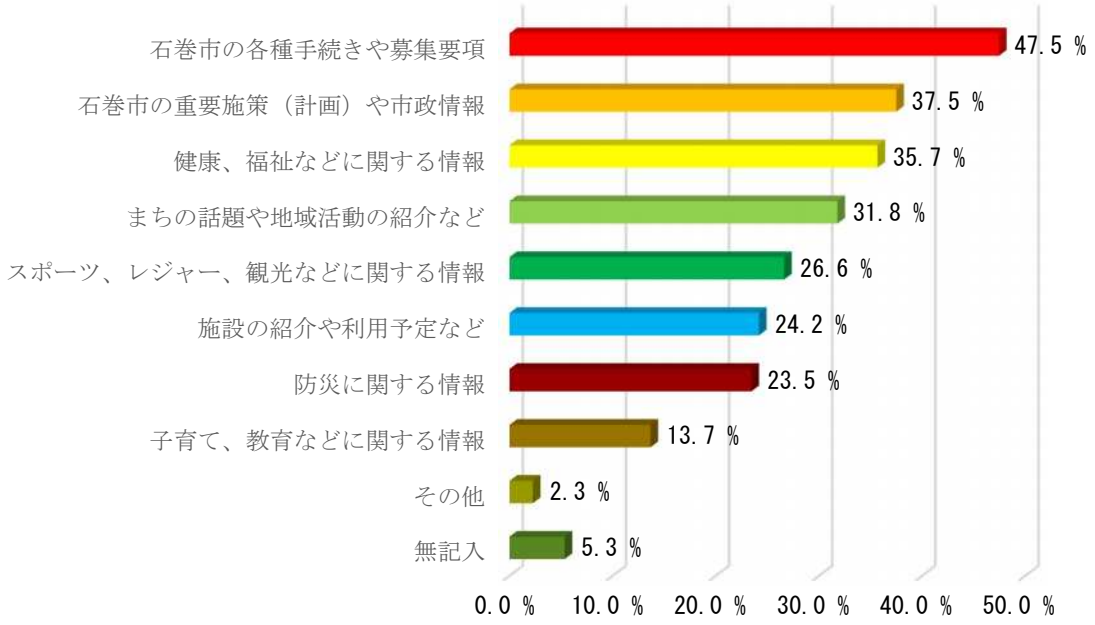
| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 読みやすい | 383 名 | 46.9 % |
| 2 | どちらとも言えない | 400 名 | 49.0 % |
| 3 | 読みにくい | 16 名 | 2.0 % |
| | 無記入 | 17 名 | 2.1 % |




【読みにくい理由】
- ●文字が小さい。
- ●もう少し内容を簡単でわかりやすくしてほしい。
- ●サイズが大きすぎるので、Ａ４にしてほしい。
- ●内容、テーマに魅力を感じない。

**問３　「市報いしのまき」でどのような情報を扱ってほしいですか。３つまで選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 石巻市の各種手続きや募集要項 | 524 名 | 47.5 % |
| 2 | 石巻市の重要施策（計画）や市政情報 | 414 名 | 37.5 % |
| 3 | 健康、福祉などに関する情報 | 394 名 | 35.7 % |
| 4 | まちの話題や地域活動の紹介など | 351 名 | 31.8 % |
| 5 | スポーツ、レジャー、観光などに関する情報 | 294 名 | 26.6 % |
| 6 | 施設の紹介や利用予定など | 267 名 | 24.2 % |
| 7 | 防災に関する情報 | 259 名 | 31.8 % |
| 8 | 子育て、教育などに関する情報 | 151 名 | 13.7 % |
| 9 | その他 | 25 名 | 2.3 % |
| | 無記入 | 59 名 | 5.3 % |




【その他】
- ●地域の困り事等共有情報紹介
- ●譲渡会や動物ボランティア情報
- ●資格取得
- ●祭りやイベントの情報
- ●仕事、求人

【集計結果の分析】

問１は、「必ず読んでいる」「たまに読んでいる」と回答した方が 73.9%を占めており、令和４年度調査での「読んでいる」「どちらかと言えば読んでいる」の 67.3%と比べ、6.6 ポイント増加しました。年齢別では、１８～２９歳では、「ほとんど読まない」「読んだことがない」、７０歳以上では、「必ず読んでいる」と回答した割合が最も高く、「必ず読んでいる」「たまに読んでいる」の割合は年齢が上がるにつれ、高い傾向にあります。

問２は、「読みやすい」が 46.9%であり、「読みにくい」の 2.0%を大きく上回っており、令和４年度調査での「読みやすい」の 37.5%と比べ、9.4 ポイント増加しました。年齢別では、１８～２９歳、７０歳以上は「読みやすい」、３０～６９歳は「どちらとも言えない」と回答した割合が最も高くなりました。

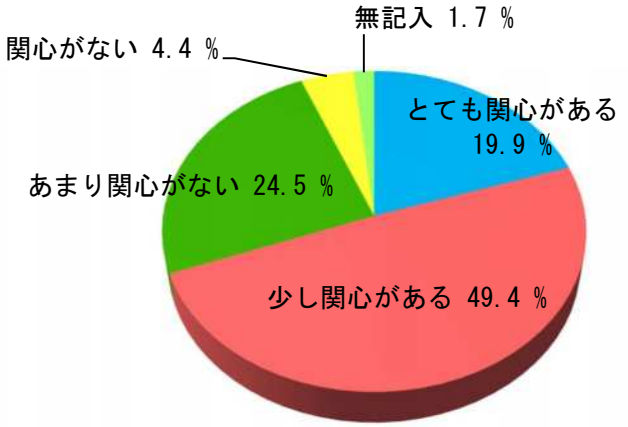
問３は、多い割合から「石巻市の各種手続きや募集事項」「石巻市の重要施策（計画）や市政情報」「健康、福祉などに関する情報」「まちの話題や地域活動の紹介など」となっており、３割以上の方が希望しております。項目別では、「石巻市の重要施策（計画）や市政情報」はどの年代も高い割合となっており、特に５０歳以上から 35%を超える高い割合となっています。「石巻市の各種手続きや募集事項」は、どの年齢も割合が高く、１８～６９歳は 50%を超える割合となっています。「健康、福祉などに関する情報」は年齢が上がるにつれ、高くなる傾向にあり、特に５０歳以上から 30%を超える高い割合となっています。「子育て、教育などに関する情報」は３０～４９歳までは 35%を超える高い割合となっていますが、５０歳以上は極端に低くなっています。「スポーツ、レジャー、観光などに関する情報」は１８～４９歳までは 35%を超える高い割合となっており、年齢が上がるにつれ低くなる傾向にあります。「防災に関する情報」は３０～４９歳までは他の年齢層と比較して 15%以下の低い割合となっています。「まちの話題や地域活動の紹介など」は割合が低い年齢層がなく、４０～４９歳、６０歳以上で 30%を超える高い割合となっています。「施設の紹介や利用予定など」はどの年齢層も 20%前後の割合となっています。

以上のことから、市報の読んでいる割合は若年層で低い結果となりましたが、令和４年度の調査と比べ、読んでいる割合、読みやすい割合ともに増加しました。令和６年４月号の市報から紙面の見直しを行い、全世代に認知されている市報をより見やすくするなど改善を行いましたが、今後もより一層の関心が高まるような、魅力的な紙面づくりを行っていきます。

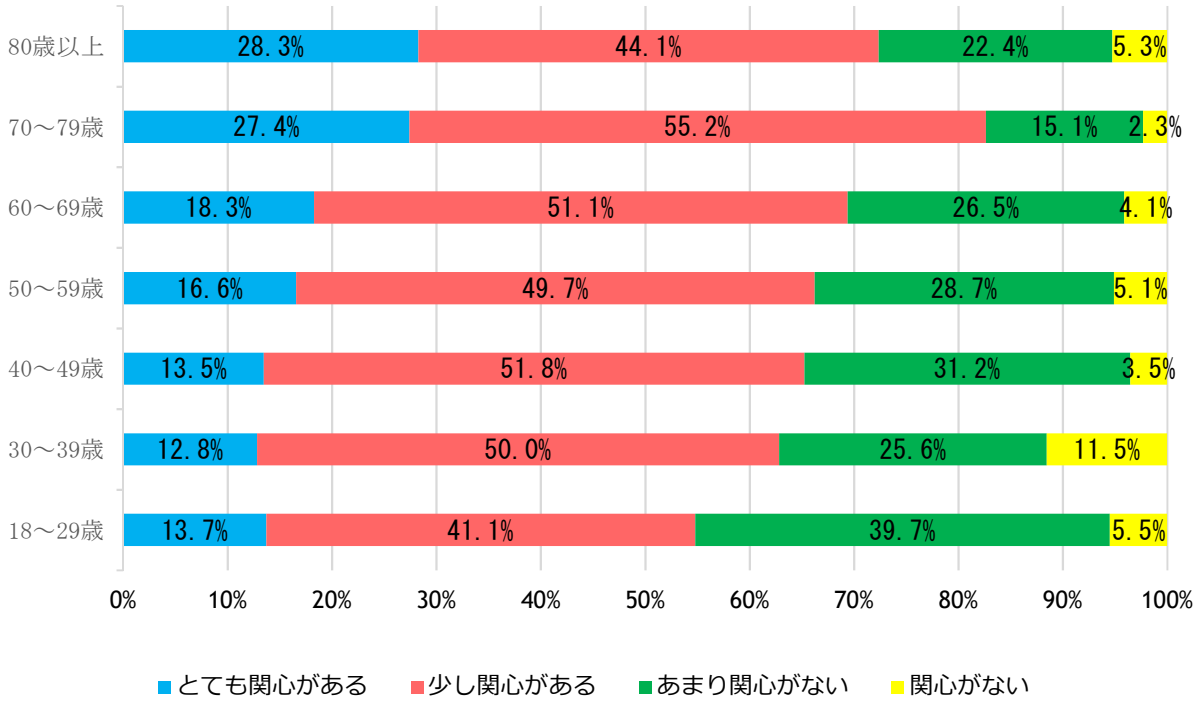
## ２　石巻市の市政への関心について

問４　石巻市が行うことへの関心について１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | とても関心がある | 220 名 | 19.9 % |
| 2 | 少し関心がある | 545 名 | 49.4 % |
| 3 | あまり関心がない | 271 名 | 24.5 % |
| 4 | 関心がない | 49 名 | 4.4 % |
| | 無記入 | 19 名 | 1.7 % |

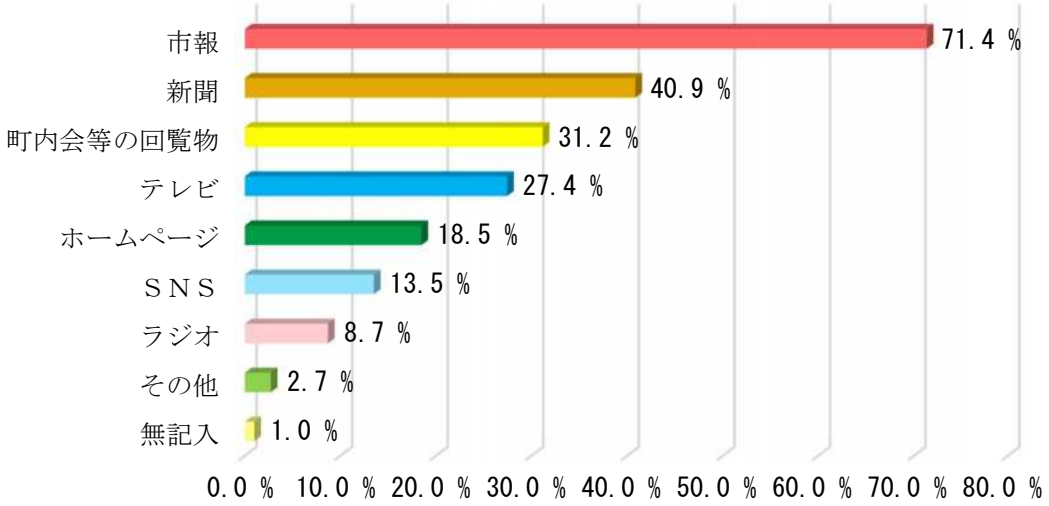



年代別回答割合

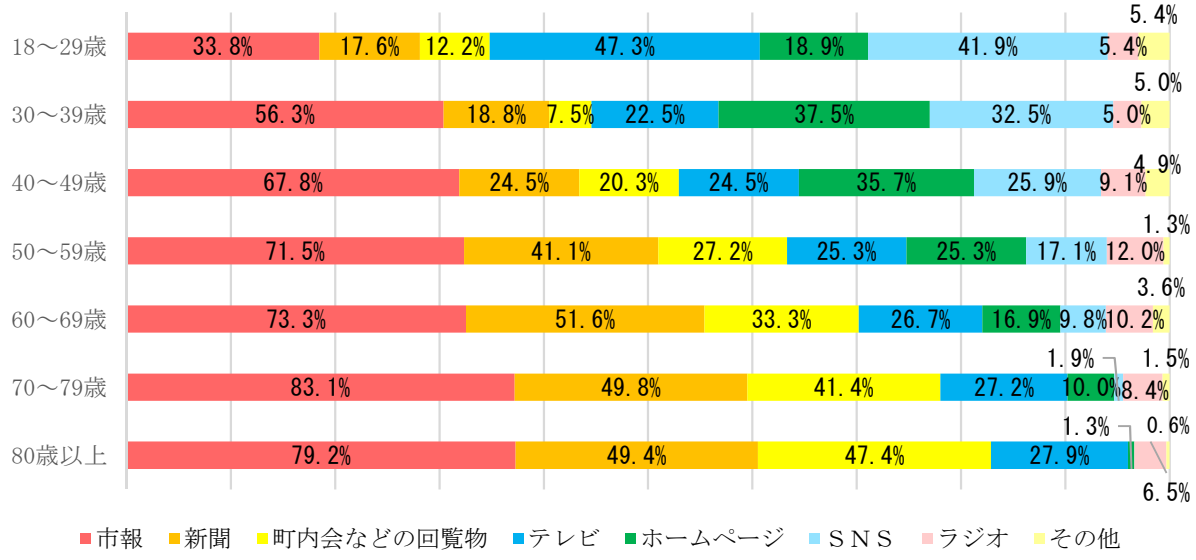


問５　市政に関する情報の入手先は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 市報 | 788 名 | 71.4 % |
| 2 | 新聞 | 451 名 | 40.9 % |
| 3 | 町内会等の回覧物 | 344 名 | 31.2 % |
| 4 | テレビ | 303 名 | 27.4 % |
| 5 | ホームページ | 204 名 | 18.5 % |
| 6 | ＳＮＳ | 149 名 | 13.5 % |
| 7 | ラジオ | 96 名 | 8.7 % |
| 8 | その他 | 30 名 | 2.7 % |
| | 無記入 | 11 名 | 1.0 % |




年代別回答割合

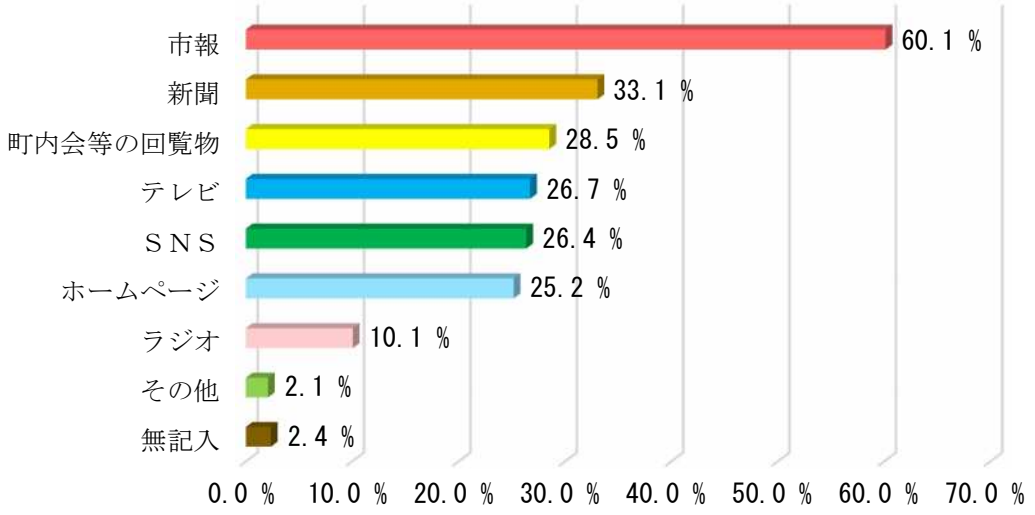



【その他】

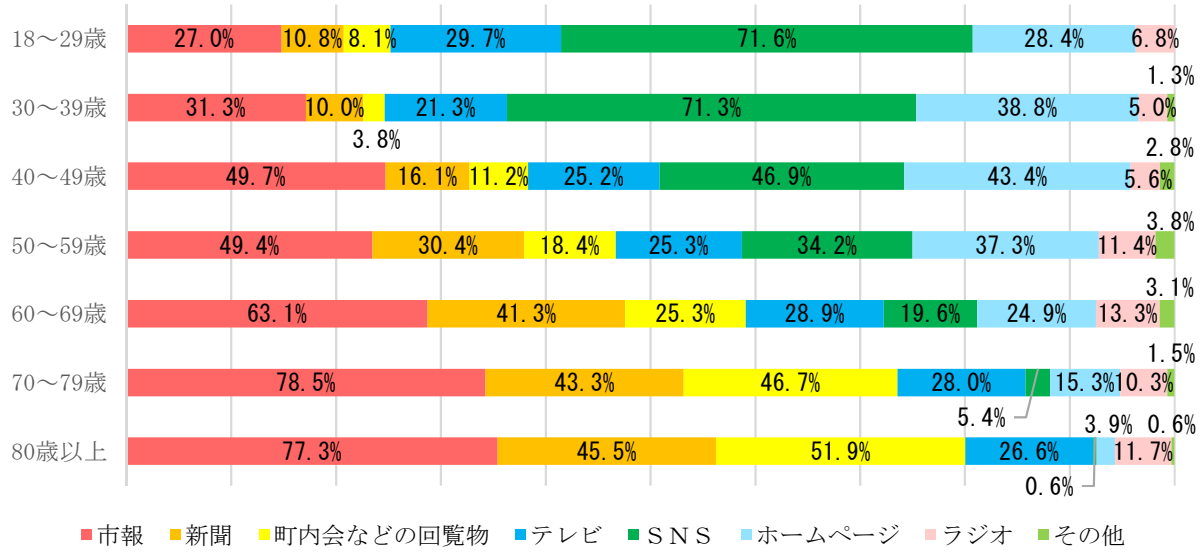
●家族　●知人　●ネットニュース

**問６　今後、力を入れてほしい情報発信の方法は何ですか。３つまで選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 市報 | 664 名 | 60.1 % |
| 2 | 新聞 | 365 名 | 33.1 % |
| 3 | 町内会等の回覧物 | 315 名 | 28.5 % |
| 4 | テレビ | 295 名 | 26.7 % |
| 5 | ホームページ | 291 名 | 26.4 % |
| 6 | ＳＮＳ | 278 名 | 25.2 % |
| 7 | ラジオ | 111 名 | 10.1 % |
| 8 | その他 | 23 名 | 2.1 % |
|  | 無記入 | 26 名 | 2.4 % |




年代別回答割合



【その他】
●家族　●知人　●ネットニュース

【集計結果の分析】

問４の市政への関心について、「とても関心がある」「少し関心がある」と回答した方が 69.3%を占めており、前年度の調査と比べ、2.6%ポイント増加しました。全ての世代で「少し関心がある」と回答した割合が最も高いですが、「あまり関心がない」「関心がない」の割合は年齢が下がるにつれ、高い傾向にあります。

問５の情報の入手先としては、「市報」が最も高く 71.4%となっています。年齢別の高い傾向として、１８～２９歳では「テレビ」「ＳＮＳ」「市報」、３０～４９歳では「市報」「ホームページ」「ＳＮＳ」、50 歳以上では「市報」「新聞」「町内会等の回覧物」の順で他の年齢と比較して高い傾向にあります。

問５の情報の入手先としては、「市報」が最も高く 71.4%となっています。年齢別の高い傾向として、１８～２９歳では「テレビ」「ＳＮＳ」「市報」、３０～４９歳では「市報」「ホームページ」「ＳＮＳ」、５０歳以上では「市報」「新聞」「町内会等の回覧物」の順で他の年齢と比較して高い傾向にあります。

問６の力を入れてほしい情報発信の方法としては、「市報」が最も高く 60.1%となっています。年齢別の高い傾向としては、１８～３９歳までは「ＳＮＳ」、４０歳以上では、「市報」が最も高い傾向にあります。情報発信別の傾向としては、「市報」は全ての年齢層が高く、年齢が高くなるにつれ、高くなる傾向にあります。「ホームページ」は４０～４９歳が最も高く、年齢差が広がるにつれ低くなる傾向にあります。「ＳＮＳ」は１８～３９歳までが最も高く、年齢が高くなるにつれ、低くなる傾向にあります。「新聞」「町内会等の回覧物」は年齢が高くなるにつれ、高くなる傾向にあります。

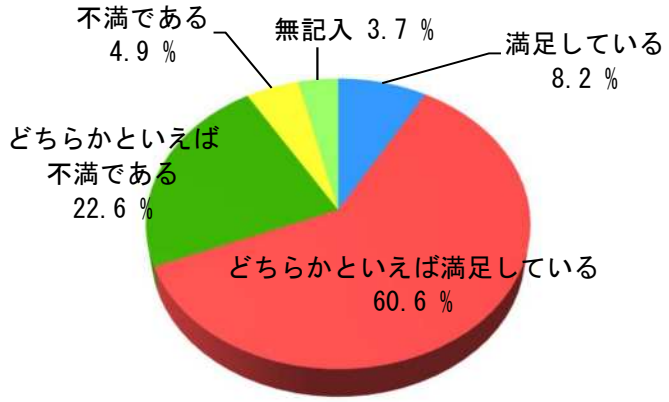
以上のことから、若年層は市政への関心が低く、世代ごとに情報の入手方法が異なる、という課題が分かりました。また、力を入れてほしい情報原として、「ホームページ」、「ＳＮＳ」が入手先の割合よりも高い割合となっています。

上記課題は昨年度の市民意識調査の結果と同様ですが、その課題に対して、秘書広報課では、令和６年８月にＳＮＳガイドラインを策定し、若年層への効果的な情報発信方法としてＳＮＳを活用することや、令和６年４月号の市報から紙面の見直しを行い、全世代に認知されている市報をより見やすくするなど改善をしており、今後も市民ニーズの把握と市政への反映に努め、市民が必要とする情報を積極的に発信してまいります。

# ３　防災対策について

**問７　地域の防災対策が推進されている。その現状について１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 満足している | 91 名 | 8.2 % |
| 2 | どちらかといえば満足している | 669 名 | 60.6 % |
| 3 | どちらかといえば不満である | 249 名 | 22.6 % |
| 4 | 不満である | 54 名 | 4.9 % |
| | 無記入 | 41 名 | 3.7 % |




【集計結果の分析】

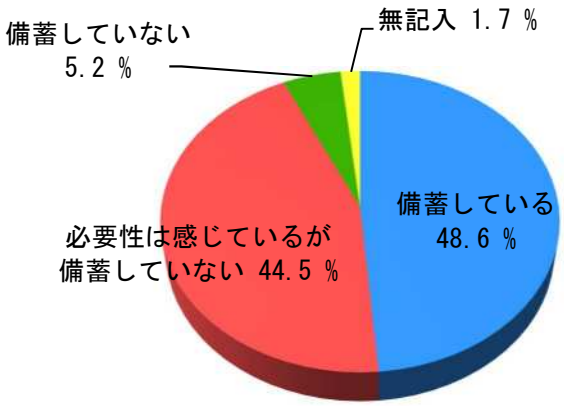
「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が 68.8%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は 27.5%と、不満度よりも満足度が高い結果となり、満足度は昨年度と比較し 3.4%上昇しました。

年代別の満足度は、２０代、４０代、５０代が 70%台に対し、３０代、６０代以上は 60%台と年代にばらつきが見られる結果となりました。

地区別では、稲井地区、湊・渡波地区、荻浜・田代地区、雄勝地区、北上地区の満足度が 75%を上回る一方、石巻地区、蛇田地区、河北地区、河南地区、桃生地区、牡鹿地区が 60%台となっており、昨年度に津波ハザードマップの改訂等による津波災害対策の推進が沿岸部地域の評価に繋がったものと推察されますが、内陸部地域の評価が相対的に低い傾向にあるため、今後は地域の特性やニーズを踏まえた防災対策を図っていく必要があると考えます。

**問８　災害時用家庭内備蓄（飲料水・食料）の必要性等について、１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 備蓄している | 537 名 | 48.6 % |
| 2 | 必要性は感じているが備蓄していない | 491 名 | 44.5 % |
| 3 | 備蓄していない | 57 名 | 5.2 % |
| | 無記入 | 19 名 | 1.7 % |




【集計結果の分析】

「備蓄している」と回答した方が 48.6%に対し、「必要性は感じているが備蓄していない」「備蓄していない」と回答した方は 49.7%と備蓄していない方が多い結果となりました。

年代別では、６０代、７０代の備蓄している割合が 50%をやや上回っていますが、それ以外の世代では 45%前後で大きな変化はありません。

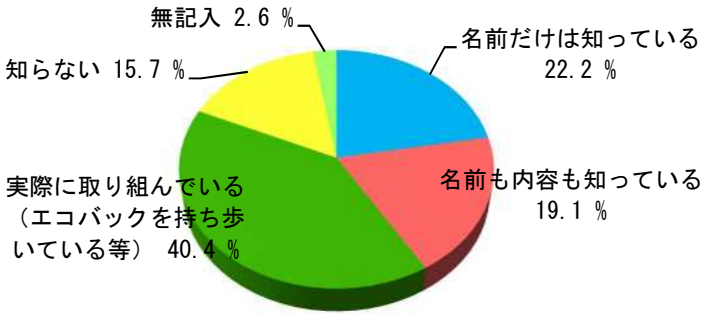
「備蓄している」地区別の割合は、石巻地区、河北地区、北上地区が 50%台に対し、雄勝地区が 22.2%、牡鹿地区が 30.8%と低く、「必要性は感じているが備蓄していない」割合は、雄勝地区が 66.7%、牡鹿地区が 61.5%と他の地区より高い傾向にあります。

なお、災害時用家庭内備蓄は、自助の重要な取組の一つであり、地域の災害リスクを考慮した、各家庭における防災意識の普及啓発に、今後より一層取り組む必要があると考えます。

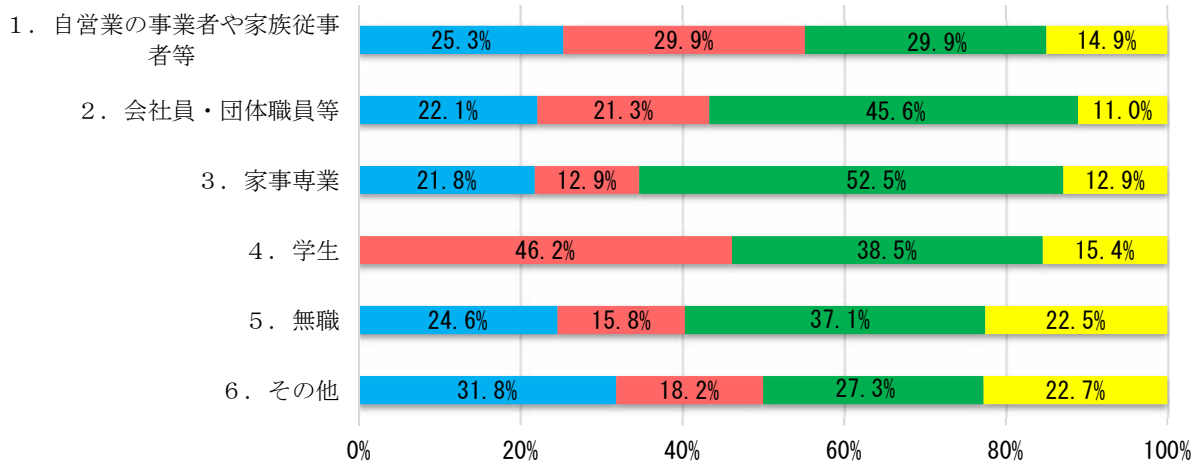
# ４　ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）について

問９　石巻市は、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）を推進しており、令和２年７月に国から「ＳＤＧｓ未来都市」に選定され、ＳＤＧｓの達成に向けた取組や普及啓発「ＳＤＧｓ」という言葉を知っていますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 名前だけは知っている | 245 名 | 22.2 % |
| 2 | 名前も内容も知っている | 211 名 | 19.1 % |
| 3 | 実際に取り組んでいる（エコバックを持ち歩いている等） | 446 名 | 40.4 % |
| 4 | 知らない | 173 名 | 15.7 % |
| | 無記入 | 29 名 | 2.6 % |




職業別回答割合




【集計結果の分析】

ＳＤＧｓという言葉を「名前だけは知っている」、「名前も内容も知っている」、「実際に取り組んでいる」と回答した人の割合は、前年度調査と同じく 81.7%となり、「実際に取り組んでいる」と回答した人の割合は、前年度調査から 0.5 ポイント増となりました。

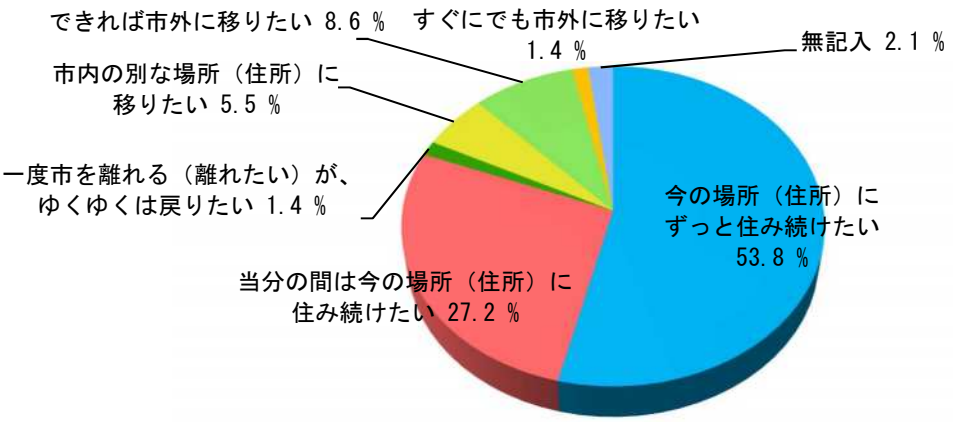
職業別では、「名前だけは知っている」、「名前も内容も知っている」、「実際に取り組んでいる」と回答した人の割合は、「自営業の事業主や家族従事者等」、「会社員・団体職員等」、「家事専業」、「学生」がいずれも 84%以上となり、高い結果となりました。

ＳＤＧｓが認知されてきており、実際に取り組んでいる人の割合も増加していることから、引き続き、ＳＤＧｓに取り組む企業と連携しながら、ＳＤＧｓの目標達成に向けて取り組んでまいります。

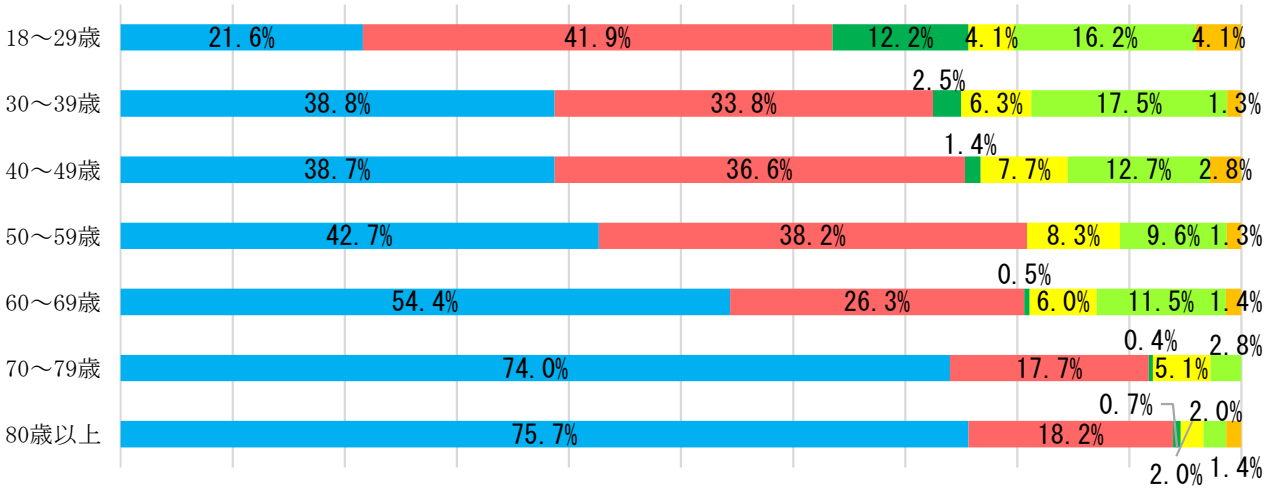
# ５　石巻市での居住について

問１０　石巻市に住み続けたいと思いますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 今の場所（住所）にずっと住み続けたい | 594 名 | 53.8 % |
| 2 | 当分の間は今の場所（住所）に住み続けたい | 300 名 | 27.2 % |
| 3 | 一度市を離れる（離れたい）が、ゆくゆくは戻りたい | 16 名 | 1.4 % |
| 4 | 市内の別な場所（住所）に移りたい | 61 名 | 5.5 % |
| 5 | できれば市外に移りたい | 95 名 | 8.6 % |
| 6 | すぐにでも市外に移りたい | 15 名 | 1.4 % |
| | 無記入 | 23 名 | 2.1 % |




年代別回答割合



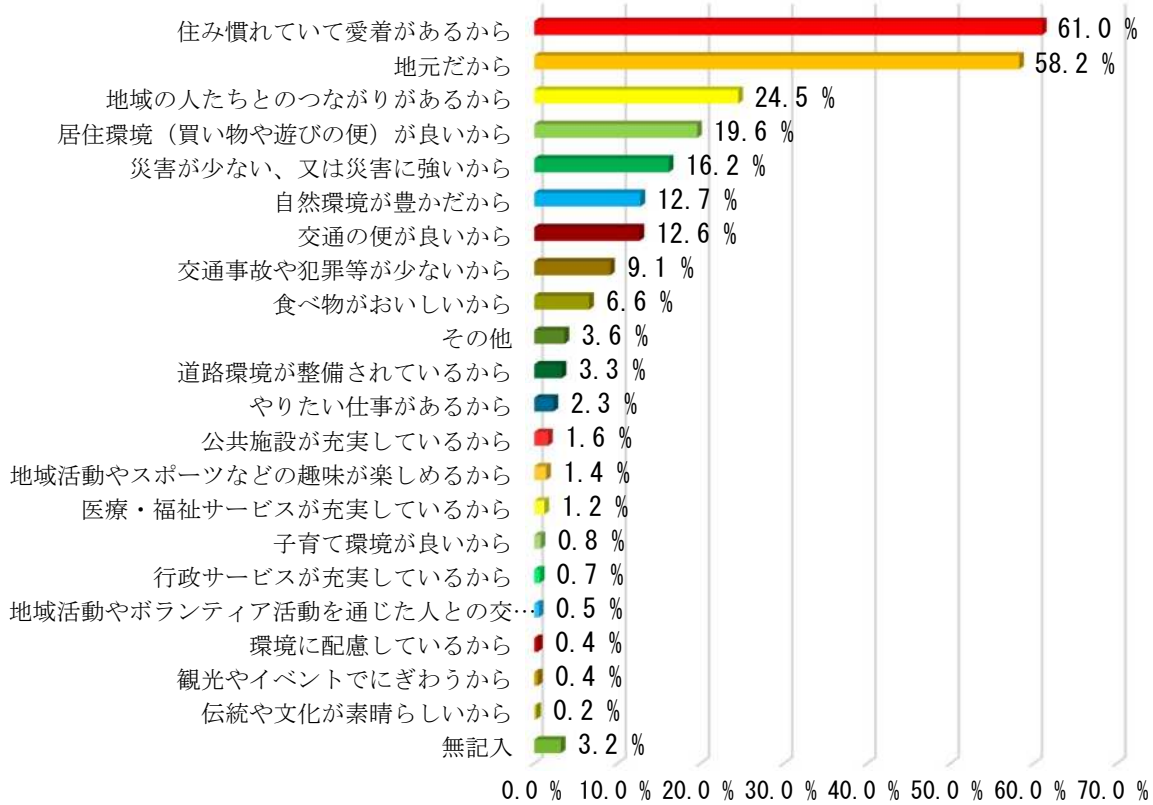

【集計結果の分析】

市内での居住を希望する４つの選択肢（「今の場所（住所）にずっと住み続けたい」、「当分の間は今の場所（住所）に住み続けたい」、「一度市を離れる（離れたい）が、ゆくゆくは戻りたい」、「市内の別な場所（住所）に移りたい」）の合計が87.9%となり、前年度調査より2.1ポイント増となりました。

年齢別では、１８～２９歳の区分において「できれば市外に移りたい」「すぐにでも市外に移りたい」と答えた人の割合が20%を超えていることから、特に若い世代が住み続けたいと思ってもらえる取組が必要であると考えます。

問１１　問１０で「１．今の場所（住所）にずっと住み続けたい」「２．当分の間は今の場所（住所）に住み続けたい」「３．一度市を離れる（離れたい）が、ゆくゆくは戻りたい」と回答した方にお聞きします。住み続けたいと思う理由に当てはまるものを３つまで選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 住み慣れていて愛着があるから | 555 名 | 61.0 % |
| 2 | 地元だから | 530 名 | 58.2 % |
| 3 | 地域の人たちとのつながりがあるから | 223 名 | 24.5 % |
| 4 | 居住環境（買い物や遊びの便）が良いから | 178 名 | 19.6 % |
| 5 | 災害が少ない、又は災害に強いから | 147 名 | 16.2 % |
| 6 | 自然環境が豊かだから | 116 名 | 12.7 % |
| 7 | 交通の便が良いから | 115 名 | 12.6 % |
| 8 | 交通事故や犯罪等が少ないから | 83 名 | 9.1 % |
| 9 | 食べ物がおいしいから | 60 名 | 6.6 % |
| 10 | その他 | 33 名 | 3.6 % |
| 11 | 道路環境が整備されているから | 30 名 | 3.3 % |
| 12 | やりたい仕事があるから | 21 名 | 2.3 % |
| 13 | 公共施設が充実しているから | 15 名 | 1.6 % |
| 14 | 地域活動やスポーツなどの趣味が楽しめるから | 13 名 | 1.4 % |
| 15 | 医療・福祉サービスが充実しているから | 11 名 | 1.2 % |
| 16 | 子育て環境が良いから | 7 名 | 0.8 % |
| 17 | 行政サービスが充実しているから | 6 名 | 0.7 % |
| 18 | 地域活動やボランティア活動を通じた人との交流が盛んだから | 5 名 | 0.5 % |
| 19 | 環境に配慮しているから | 4 名 | 0.4 % |
| 20 | 観光やイベントでにぎわうから | 4 名 | 0.4 % |
| 21 | 伝統や文化が素晴らしいから | 2 名 | 0.2 % |
|  | 無記入 | 29 名 | 3.2 % |



【その他】

●家族がいるから
●持ち家だから
●職場が石巻にあり、通勤時間は短いほうが良いから
●金銭的理由から
●自営業だから
●墓、田、畑があり、管理していかないと周囲に迷惑をかけるから
●気候が良い
●他に住みたい場所がない
●現状に満足しているから

【集計結果の分析】

石巻市に住み続けたい理由としては、「住み慣れていて愛着があるから」が 61.0%と最も高く、次いで「地元だから」が 58.2%となりました。

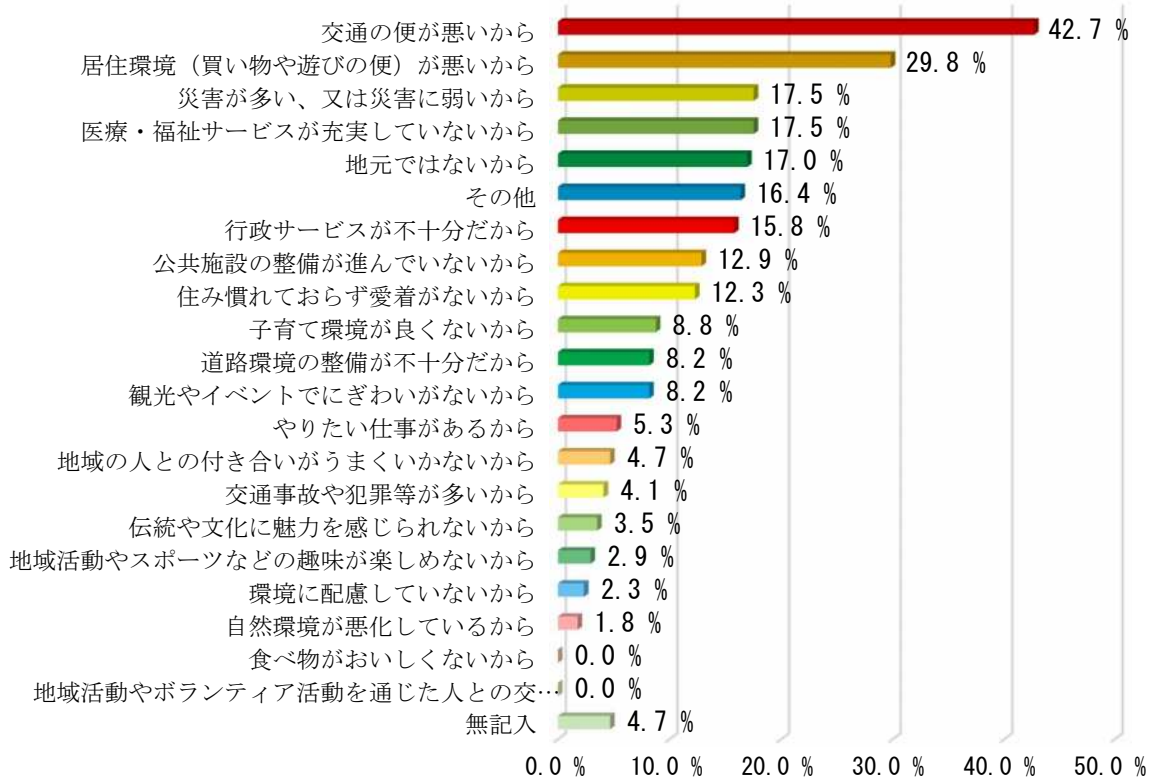
そのほか、回答割合が高かった項目としては、「地域の人たちとのつながりがあるから」、「居住環境（買い物や遊びの便）が良いから」、「災害が少ない、又は災害に強いから」、「自然環境が豊かだから」、「交通の便が良いから」が 12%を超える結果となりました。

低かった項目としては、「地域活動やボランティア活動を通じた人との交流が盛んだから」、「環境に配慮しているから」、「観光やイベントでにぎわうから」、「伝統や文化が素晴らしいから」がいずれも 0.5%以下となりました。

引き続き、住み続けたいと思ってもらえるよう、市内外に本市の魅力を発信するとともに、郷土愛の醸成を育む取組を実施していく必要があると考えます。

問１２　　問１０で「４．市内の別な場所（住所）に移りたい」「５．できれば市外に移りたい」「６．すぐにでも市外に移りたい」と回答した方にお聞きします。市内の別な場所（住所）又は市外に移り住みたい理由は何ですか。当てはまるものを３つまで選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 交通の便が悪いから | 73 名 | 42.7 % |
| 2 | 居住環境（買い物や遊びの便）が悪いから | 51 名 | 29.8 % |
| 3 | 災害が多い、又は災害に弱いから | 30 名 | 17.5 % |
| 4 | 医療・福祉サービスが充実していないから | 30 名 | 17.5 % |
| 5 | 地元ではないから | 29 名 | 17.0 % |
| 6 | その他 | 28 名 | 16.4 % |
| 7 | 行政サービスが不十分だから | 27 名 | 15.8 % |
| 8 | 公共施設の整備が進んでいないから | 22 名 | 12.9 % |
| 9 | 住み慣れておらず愛着がないから | 21 名 | 12.3 % |
| 10 | 子育て環境が良くないから | 15 名 | 8.8 % |
| 11 | 道路環境の整備が不十分だから | 14 名 | 8.2 % |
| 12 | 観光やイベントでにぎわいがないから | 14 名 | 8.2 % |
| 13 | やりたい仕事があるから | 9 名 | 5.3 % |
| 14 | 地域の人との付き合いがうまくいかないから | 8 名 | 4.7 % |
| 15 | 交通事故や犯罪等が多いから | 7 名 | 4.1 % |
| 16 | 伝統や文化に魅力を感じられないから | 6 名 | 3.5 % |
| 17 | 地域活動やスポーツなどの趣味が楽しめないから | 5 名 | 2.9 % |
| 18 | 環境に配慮していないから | 4 名 | 2.3 % |
| 19 | 自然環境が悪化しているから | 3 名 | 1.8 % |
| 20 | 食べ物がおいしくないから | 0 名 | 0.0 % |
| 21 | 地域活動やボランティア活動を通じた人との交流が盛んでないから | 0 名 | 0.0 % |
|  | 無記入 | 8 名 | 4.7 % |



【その他】

●もっと田舎の静かなところでゆっくり暮らしたいと考えているため
●水道水が不味いから
●元々、他への移住を考えていたから
●家が古いから
●仕事がない、賃金が安い
●女川原発事故の際、避難地域に入っているから
●学校までの道が危ないから
●別の場所に住んでいる子どもの近くに引っ越したいため
●運転の荒い人が多いと感じるから
●団地の人から酷いいやがらせを受けているから
●地域の行事が多くて煩わしい
●市外に住む子どもと近居したいため
●税金が高いと感じるため

【集計結果の分析】

市外に移り住みたい理由としては、「交通の便が悪いから」が 42.7%と最も高く、次いで「居住環境（買い物や遊びの便）が悪いから」が 29.8%となりました。

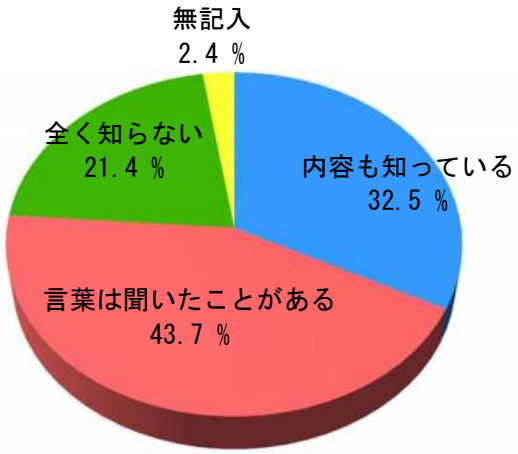
そのほか、回答割合が高かった項目としては、「災害が多い、又は災害に弱いから」、「医療・福祉サービスが充実していないから」、「地元ではないから」、「行政サービスが不十分だから」、「公共施設の整備が進んでいないから」、「住み慣れておらず愛着がないから」が 12%を超えています。

市外に移り住みたい理由として回答割合が高かった項目については、関係各課と情報共有し、改善に努めてまいります。

## ６　男女共同参画社会について

**問１３　あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 内容も知っている | 359 名 | 32.5 % |
| 2 | 言葉は聞いたことがある | 482 名 | 43.7 % |
| 3 | 全く知らない | 236 名 | 21.4 % |
| | 無記入 | 27 名 | 2.4 % |




【集計結果の分析】

「男女共同参画社会」という言葉の認知度は、「言葉は聞いたことがある」との回答が43.7%と最も多く、「内容も知っている」と合わせた認知度は 76.2%となっています。

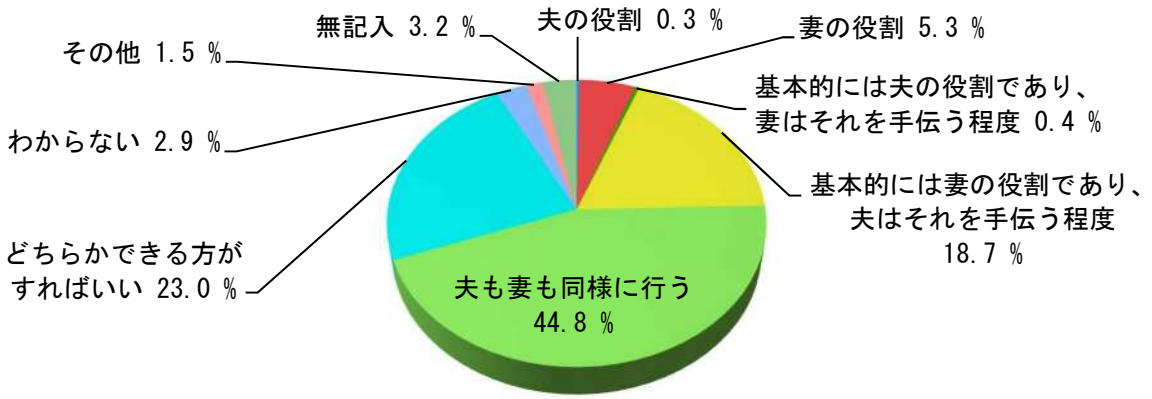
しかし、「全く知らない」と回答した方も 21.4%となっていることから、ホームページ、ＳＮＳを活用した情報提供や、男女共同参画関連セミナー、イベント等での広報・意識啓発を行い、認知度の向上を図る必要があると考えます。

**問１４　家庭での育児や家事は、誰の役割だと思いますか。１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 夫の役割 | 3 名 | 0.3 % |
| 2 | 妻の役割 | 58 名 | 5.3 % |
| 3 | 基本的には夫の役割であり、妻はそれを手伝う程度 | 4 名 | 0.4 % |
| 4 | 基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度 | 206 名 | 18.7 % |
| 5 | 夫も妻も同様に行う | 495 名 | 44.8 % |
| 6 | どちらかできる方がすればいい | 254 名 | 23.0 % |
| 7 | わからない | 32 名 | 2.9 % |
| 8 | その他 | 17 名 | 1.5 % |
| | 無記入 | 35 名 | 3.2 % |

【その他】

●それぞれの環境によって異なる
●夫婦同様に行うべきだと思うが、妻である私の役割になっている
●独身
●生活するためには必須なので誰の役割ではなく、それぞれの各家庭で決めればいいと思う
●母子家庭
●家庭で話し合って分担すればいい（参画する機会は保証されたうえで）
●その時の状況による。できれば双方
●義母
●適材適所
●一人暮らし
●夫が仕事を持つ立場なら、夫婦で話し合い、協力し合うのも良いかなと思います
●得意な事を、出来る時に分担



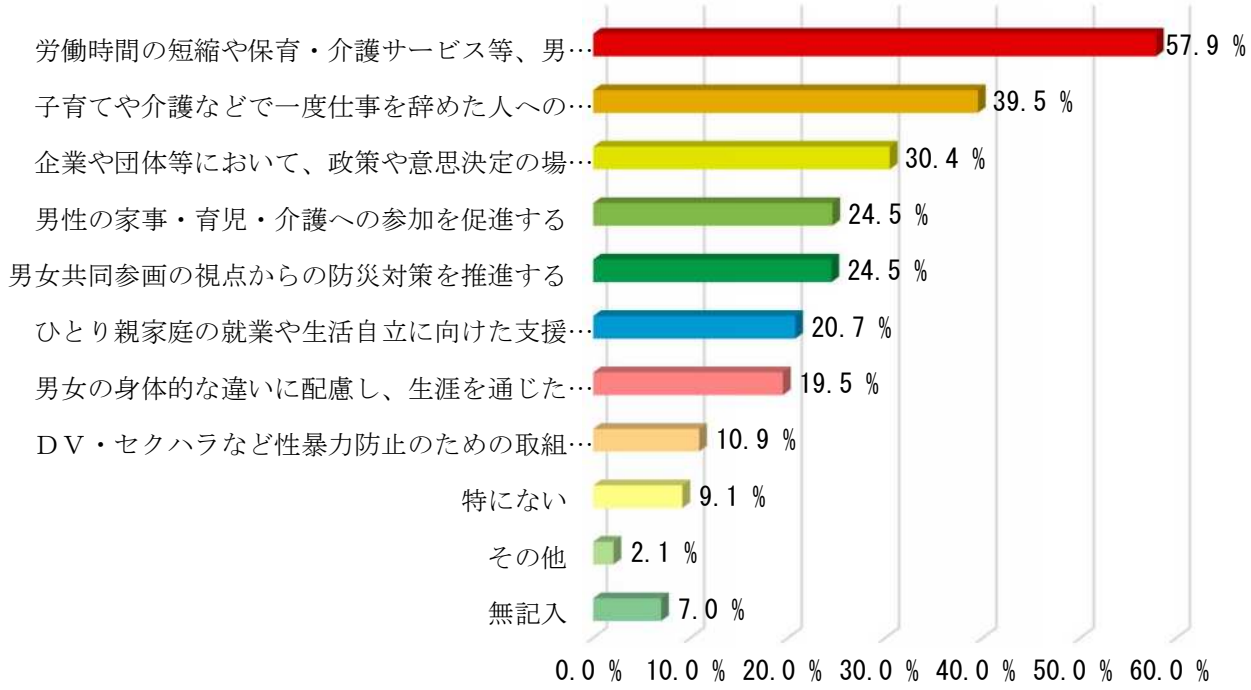

【集計結果の分析】

家庭での育児や家事は「夫も妻も同様に行う」が 44.8%、「どちらかできる方がすればい」が 23.0%と、性別に関係なく家事を行うと考える方が 67.8%となっています。

一方で、家庭での育児や家事は「夫の役割」が 0.3%であるのに対して、「妻の役割」が 5.3%、「基本的には夫の役割であり、妻はそれを手伝う程度」が 0.4%に対して、「基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」が 18.7%となっていることから、男性の育児や家事に対する意識啓発セミナー等を通じて、固定的な役割分担意識（男性・女性という性別を理由に役割を固定的に分けること。）にとらわれず役割を決めることの意識醸成を図る必要があると考えます。

**問１５　男女共同参画社会を実現するために、今後、石巻市はどのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。３つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 労働時間の短縮や保育・介護サービス等、男女ともに働きやすい環境を整える | 639 名 | 57.9 % |
| 2 | 子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する | 436 名 | 39.5 % |
| 3 | 企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する | 336 名 | 30.4 % |
| 4 | 男性の家事・育児・介護への参加を促進する | 271 名 | 24.5 % |
| 5 | 男女共同参画の視点からの防災対策を推進する | 270 名 | 24.5 % |
| 6 | ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実する | 229 名 | 20.7 % |
| 7 | 男女の身体的な違いに配慮し、生涯を通じた健康支援を行う | 215 名 | 19.5 % |
| 8 | ＤＶ・セクハラなど性暴力防止のための取組や被害者支援を行う | 120 名 | 10.9 % |
| 9 | 特にない | 101 名 | 9.1 % |
| 10 | その他 | 23 名 | 2.1 % |
| | 無記入 | 77 名 | 7.0 % |



【その他】
●意識を変える
●男女の身体的な違いに配慮は必要だが、配慮と優遇の違いを明確にし、男女が平等に仕事と家庭の両立を図れる制度、取組を行っていただきたい。そのためにも男性の育児休暇の促進、女性の働く場の確保を行う。
●保育士の待遇改善、持ち帰りの仕事をなくす、給料を増やす、職場環境を改善する
●教育水準をあげる
●休業中の保証をキチンとして欲しい
●補助金
●教育活動に力を入れる
●後継者のいない家庭への相談対応
●無理に促進支援などせず、能力・意思のある人を登用すればいいと思う
●男女が対等とは言え、力仕事等は平等にはできない部分もあると思うので、その辺も含め考えてほしいと思います
●年齢や性別に関係なく、市民の小さな疑問や不満に対応し、生きやすい市になってほしい
●ひとり親世帯への支援などあるが、人間はみな平等なので偏りのない社会を作っていくべきである
●共同参画社会は女性の登用を促進するのではなく、企業や組織の中で育て、適材適所で人材をあてていく
●実現が進んでいる地域と連絡を取る
●男女に関係なく誰にとっても良い社会を作ればよい
●子育てしやすい環境（お金面も含め）を市としてやってほしい
●同一労働、同一賃金の徹底
●生きがいを見つける

【集計結果の分析】

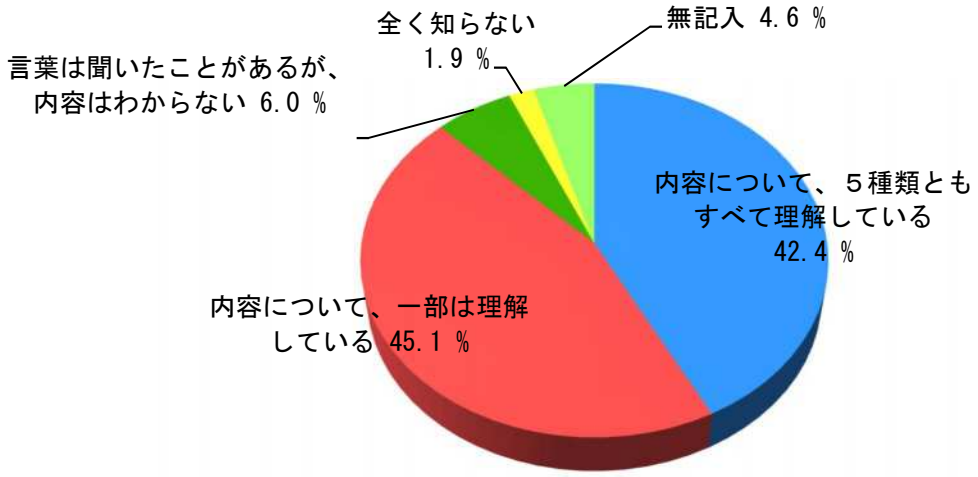
「労働時間の短縮や保育・介護サービス等、男女ともに働きやすい環境を整える」との回答が 57.9%と最も高くなっており、男女ともに家事や育児などをしながらでも十分に働くことができる環境が必要とされていることがうかがえます。

また、「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」との回答が 39.5%、「企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する」との回答が 30.4%となっていることから、職場環境の整備促進事業や再就職に対する支援、政策や意思決定の場への女性の登用促進の呼びかけなどを実施し、男女が社会の対等な構成員として、共に参画できる社会の実現を目指すことが重要であると考えます。

問１６　あなたは、ＤＶ（配偶者等からの暴力）の内容について正しく理解していますか。１つ選んでください。

≪ＤＶの種類‥身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、社会的暴力、経済的暴力≫

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 内容について、５種類ともすべて理解している | 468 名 | 42.4 % |
| 2 | 内容について、一部は理解している | 498 名 | 45.1 % |
| 3 | 言葉は聞いたことがあるが、内容はわからない | 66 名 | 6.0 % |
| 4 | 全く知らない | 21 名 | 1.9 % |
| | 無記入 | 51 名 | 4.6 % |




【集計結果の分析】

ＤＶの内容について正しく理解しているかどうかについては、「５種類ともすべて理解している」が 42.4%、「一部は理解している」が 45.1%となっています。 言葉自体の認知度は93.5%と高くなっていますが、すべてのＤＶについて正しく理解してもらうために、今後もホームページやＳＮＳ等を活用した情報提供、啓発活動に努める必要があると考えます。

**問１７　あなたは、セクシャル・ハラスメントまたはＤＶ（配偶者等からの暴力）被害にあった時の相談窓口（ア～オ）を知っていますか。各項目につき１つ選んでください。また、ア～オ以外の相談窓口を知っている方は、その他の欄にご記入ください。**

ア　石巻警察署

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 名称も支援内容も知っている | 374 名 | 33.9 % |
| 2 | 名称は聞いたことがある | 386 名 | 35.0 % |
| 3 | 全く知らない | 195 名 | 17.7 % |
| | 無記入 | 149 名 | 13.5 % |

イ　石巻市総合相談センター

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 名称も支援内容も知っている | 103 名 | 9.3 % |
| 2 | 名称は聞いたことがある | 322 名 | 29.2 % |
| 3 | 全く知らない | 473 名 | 42.8 % |
| | 無記入 | 206 名 | 18.7 % |

ウ　宮城県東部保健福祉事務所

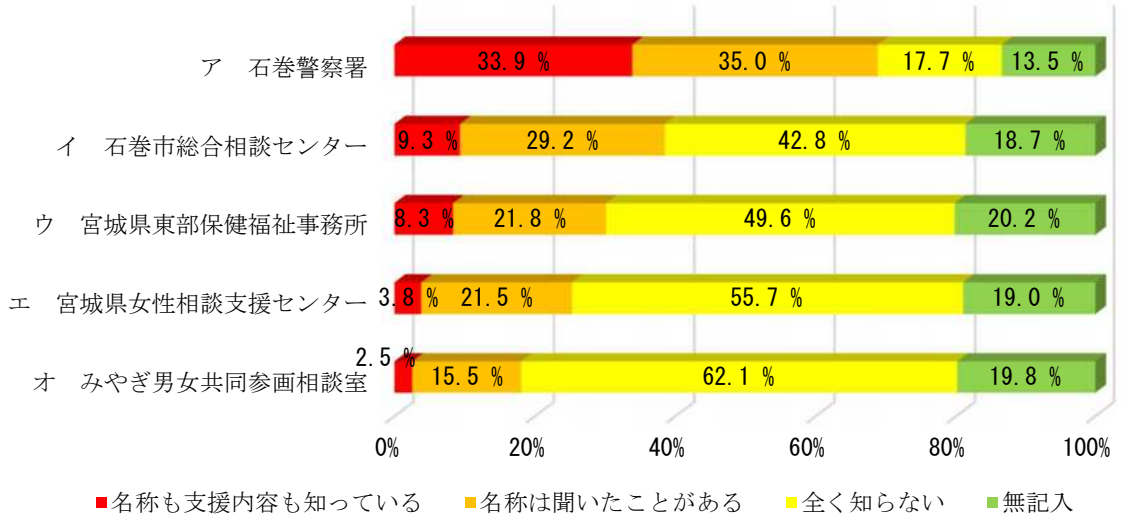
| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 名称も支援内容も知っている | 92 名 | 8.3 % |
| 2 | 名称は聞いたことがある | 241 名 | 21.8 % |
| 3 | 全く知らない | 548 名 | 49.6 % |
| | 無記入 | 223 名 | 20.2 % |

エ　宮城県女性相談支援センター

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 名称も支援内容も知っている | 42 名 | 3.8 % |
| 2 | 名称は聞いたことがある | 237 名 | 21.5 % |
| 3 | 全く知らない | 615 名 | 55.7 % |
| | 無記入 | 210 名 | 19.0 % |

オ　みやぎ男女共同参画相談室

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 名称も支援内容も知っている | 28 名 | 2.5 % |
| 2 | 名称は聞いたことがある | 171 名 | 15.5 % |
| 3 | 全く知らない | 686 名 | 62.1 % |
| | 無記入 | 219 名 | 19.8 % |




【その他】
●からころステーション
●りとりーと（みんなの家）
●各組織のハラスメント対応部署
●シェルター
●弁護士会

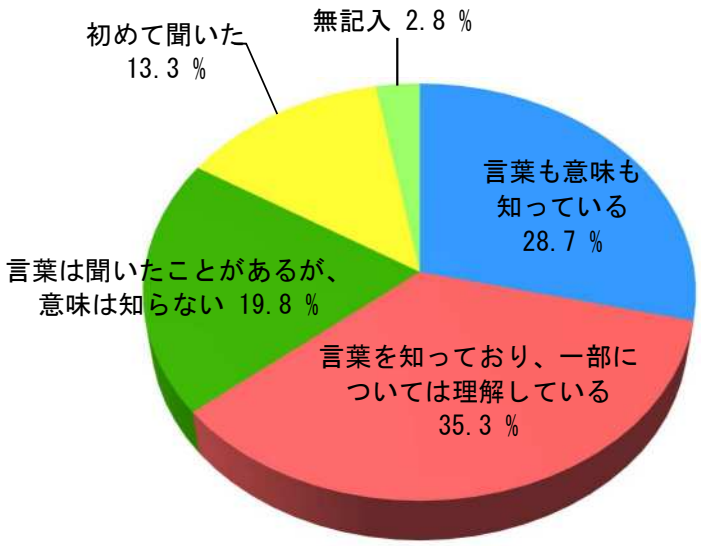
【集計結果の分析】

セクシャル・ハラスメント又はＤＶの各種相談窓口について、「名称も支援内容も知っている」との回答が最も多いところでも、その割合は 33.9%となっており、セクシャル・ハラスメントやＤＶ被害にあった際の相談窓口の認知度は低いことがうかがえます。

このことから、関係団体との情報共有等、連携強化を図りながら相談窓口や支援内容の周知に努める必要があると考えます。

問１８　あなたは、「性的マイノリティ」、「ＬＧＢＴ」という言葉を知っていますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 言葉も意味も知っている | 317 名 | 28.7 % |
| 2 | 言葉を知っており、一部については理解している | 390 名 | 35.3 % |
| 3 | 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない | 219 名 | 19.8 % |
| 4 | 初めて聞いた | 147 名 | 13.3 % |
| | 無記入 | 31 名 | 2.8 % |




【集計結果の分析】

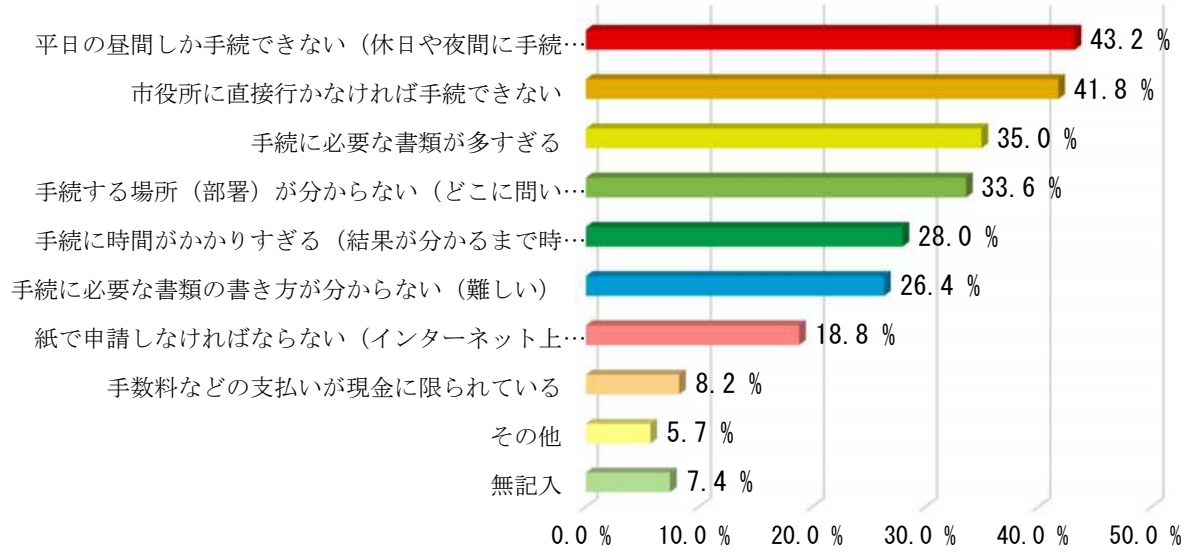
性的マイノリティ、ＬＧＢＴの言葉自体の認知度については 83.8%となっていますが、「言葉も意味も知っている」と回答した割合を見ると 28.7%にとどまっています。

このことから、言葉だけでなく、内容についても理解を深めてもらうために、研修や啓発事業を実施し、更なる理解促進を図る必要があると考えます。

# ７　デジタル社会に関することについて

**問１９　普段の生活に関わる市役所の手続の中で、あなたが「不便」、「手間」、「面倒」だと感じていることは何ですか。（複数回答可）**

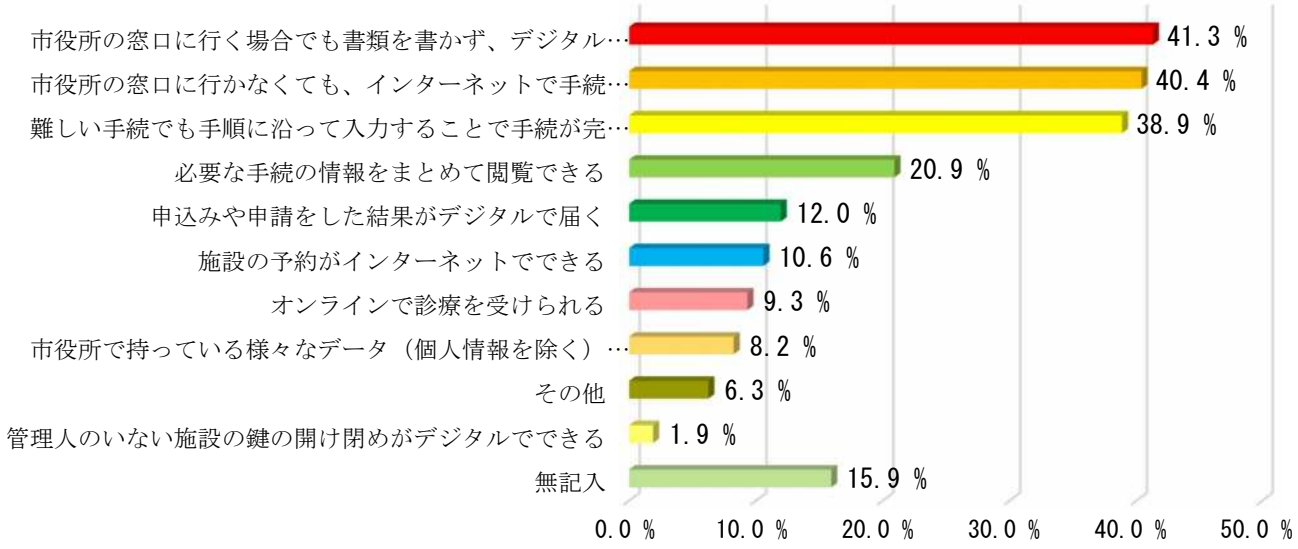
| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 平日の昼間しか手続できない（休日や夜間に手続きができない） | 477 名 | 43.2 % |
| 2 | 市役所に直接行かなければ手続できない | 461 名 | 41.8 % |
| 3 | 手続に必要な書類が多すぎる | 386 名 | 35.0 % |
| 4 | 手続する場所（部署）が分からない（どこに問い合わせれば良いか分からない） | 371 名 | 33.6 % |
| 5 | 手続に時間がかかりすぎる（結果が分かるまで時間がかかりすぎる） | 309 名 | 28.0 % |
| 6 | 手続に必要な書類の書き方が分からない（難しい） | 291 名 | 26.4 % |
| 7 | 紙で申請しなければならない（インターネット上で手続できない） | 208 名 | 18.8 % |
| 8 | 手数料などの支払いが現金に限られている | 91 名 | 8.2 % |
| 9 | その他 | 63 名 | 5.7 % |
| | 無記入 | 82 名 | 7.4 % |




【その他】
- ●待ち時間が長い
- ●同じ内容の書類を毎年書かせられる
- ●支所や総合支所でできない手続がある（複数）
- ●職員が知識不足で質問にこたえられない・不親切（複数）
- ●インターネットでの手続
- ●一つの事の解決のために色々な部署を渡り歩かなければならない（複数）
- ●身体に障害がある方には市役所から手続にきてほしい
- ●駐車場が停めにくい（複数）
- ●手書きしないといけないのがとても嫌
- ●何もかもがデジタル化では困る（複数）
- ●マイナンバーカードが必要なことが多い
- ●問い合わせがＡＩチャットでできない
- ●支払い期日が短い

**問２０　普段の生活に関わる市役所で受けられるサービスが、デジタル化によりどのように変われば、あなたが利用する場合に便利になると思いますか。３つまで選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 市役所の窓口に行く場合でも書類を書かず、デジタル機器の画面をタッチするだけで手続ができる | 456 名 | 41.3 % |
| 2 | 市役所の窓口に行かなくても、インターネットで手続ができる | 446 名 | 40.4 % |
| 3 | 難しい手続でも手順に沿って入力することで手続が完了する | 429 名 | 38.9 % |
| 4 | 必要な手続の情報をまとめて閲覧できる | 231 名 | 20.9 % |
| 5 | 申込みや申請をした結果がデジタルで届く | 132 名 | 12.0 % |
| 6 | 施設の予約がインターネットでできる | 117 名 | 10.6 % |
| 7 | オンラインで診療を受けられる | 103 名 | 9.3 % |
| 8 | 市役所で持っている様々なデータ（個人情報を除く）が入手しやすくなる | 91 名 | 8.2 % |
| 9 | その他 | 69 名 | 6.3 % |
| 10 | 管理人のいない施設の鍵の開け閉めがデジタルでできる | 21 名 | 1.9 % |
|  | 無記入 | 176 名 | 15.9 % |




【その他】
- ●特にかわらないと思う
- ●デジタル化についていけない・不安・苦手（複数）
- ●診療予約がオンラインでできる
- ●自分の健康診断のデータをネットで見られる
- ●インターネットの講習が必要
- ●高齢者に対してやさしいデジタル化

【集計結果の分析】

問１９は、「平日の昼間にしか手続できない」「市役所に直接行かなければ手続できない」「手続に必要な書類が多すぎる」「手続する場所（部署）が分からない」ことに対し、「不便」「手間」「面倒」だと感じる回答が多い結果となりました。年代別には、「平日の昼間にしか手続できない」が６０代以下の各年代で共通して最も多く選ばれた選択肢であり、７０代と８０代以上では、「市役所に直接行かなければ手続できない」と「書類の書き方が分からない（難しい）」がそれぞれ最も多く選ばれた選択肢でした。

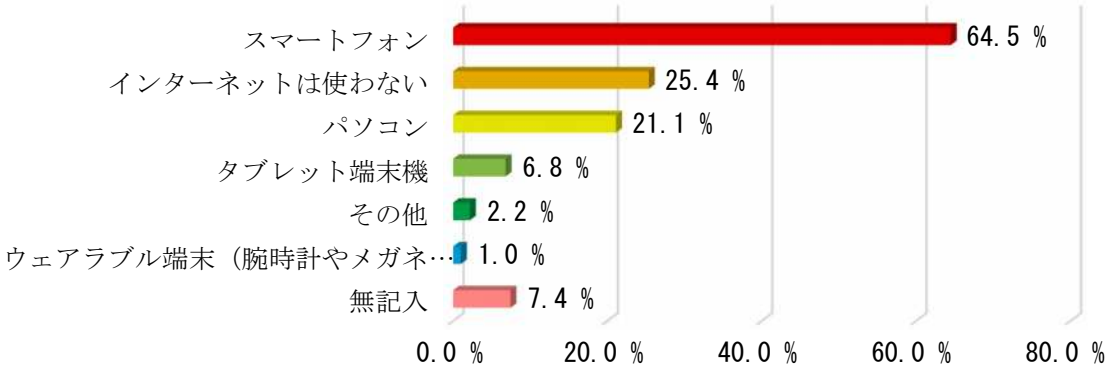
令和３年度の調査結果と比較すると、手続する場所や問合せ先が分からないとする回答が5.5ポイント増加していることから、改善策としては既存の周知方法における情報の取得しやすさ（検索性）の向上や、プッシュ型の情報発信による住民への効果的なアプローチが考えられます。また、手続の時間帯については2.9ポイント、手続の場所については5.7ポイントと、それぞれ回答が減少しました。全体でみると、不便さなどを感じている選択割合は減少しましたが、年代ごとに多く選ばれた項目が異なることも踏まえながら、情報発信や手続の在り方の改善を進める必要があると考えます。

問２０は、「市役所の窓口に行く場合でも書類を書かず、デジタル機器の画面をタッチするだけで手続ができる」「市役所の窓口に行かなくても、インターネットで手続ができる」「難しい手続でも手順に沿って入力することで手続が完了する」の３つの選択肢が、全ての年代で上位４番目までに入る結果となりました。なお、他の年代と比較すると、７０代ではインターネットで手続できることに対する選択が少なく、８０代以上では、この設問への無記入が多い結果となりました。

２つの設問への回答結果から、「不便」「手間」「面倒」を解消する方法として、時間にとらわれないインターネットの手続や、手順に沿って操作することで手続が進むデジタル機器の導入は、市民サービスの向上に有効な手段であると考えます。

**問２１　普段の生活の中でインターネットを使って情報を入手したり買い物をしたりする際、あなたが使う機器を教えてください（複数回答可）**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | スマートフォン | 712 名 | 64.5 % |
| 2 | インターネットは使わない | 280 名 | 25.4 % |
| 3 | パソコン | 233 名 | 21.1 % |
| 4 | タブレット端末機 | 75 名 | 6.8 % |
| 5 | その他 | 24 名 | 2.2 % |
| 6 | ウェアラブル端末（腕時計やメガネ型などの身に付けて使用する情報端末） | 11 名 | 1.0 % |
| | 無記入 | 82 名 | 7.4 % |



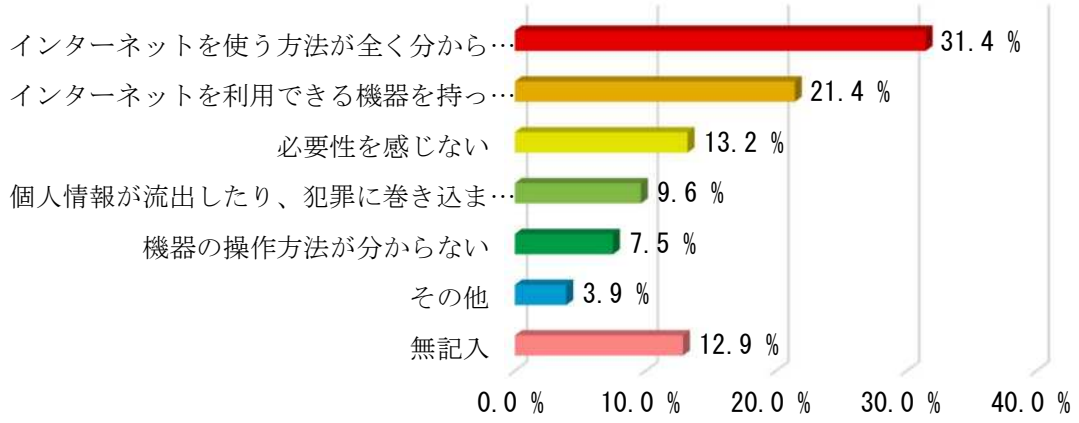

【その他】
●ガラケー（従来型携帯電話）

【集計結果の分析】

「スマートフォン」が他のデジタル機器よりも際立って多く選ばれ、７０代でも40%近くの方が利用している回答となりました。
令和３年度の調査結果と比較すると、スマートフォン以外の機器を利用する回答が減少しており、令和６年度の情報通信白書（総務省）に掲載された「情報通信機器の世帯保有率の推移」と同様に「パソコン」「タブレット」の保有率が減少していることが確認できました。普段の生活でスマートフォンを主として利用する方が現在も増加傾向にあることがうかがえます。オンライン上の情報の閲覧や手続を想定する場合は、スマートフォンでの操作に不便がないことを基本として進める必要があると考えます。

**問２２　問２１で「インターネットは使わない」と回答した方にお聞きします。インターネットを使わない理由は何ですか。特に当てはまるものを１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | インターネットを使う方法が全く分からない | 88 名 | 31.4 % |
| 2 | インターネットを利用できる機器を持っていない | 60 名 | 21.4 % |
| 3 | 必要性を感じない | 37 名 | 13.2 % |
| 4 | 個人情報が流出したり、犯罪に巻き込まれないか心配 | 27 名 | 9.6 % |
| 5 | 機器の操作方法が分からない | 21 名 | 7.5 % |
| 6 | その他 | 11 名 | 3.9 % |
|  | 無記入 | 36 名 | 12.9 % |



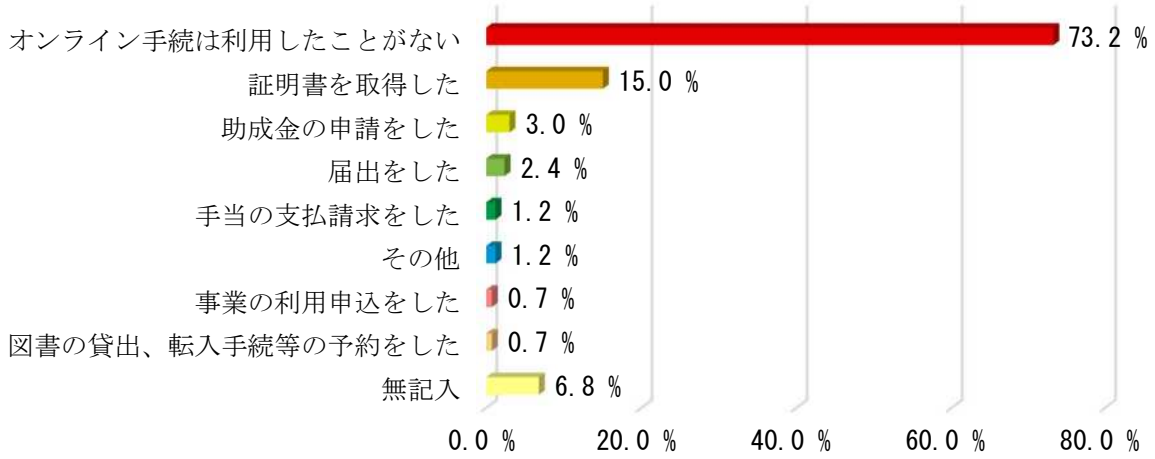

【その他】
●家族に手続してもらっている（複数）　●高齢のため
●指先が不自由　●入力操作に時間がかかり面倒

【集計結果の分析】

「インターネットは使わない」理由として、６０代以下に特定の理由が多い傾向は見られませんでした。７０代以上では、「インターネットを使う方法が全く分からない」という回答が多くありました。市役所のサービスをデジタル化する際には、インターネットの利用が困難な方へのサービスの在り方も踏まえた検討が必要と考えます。

**問２３　市役所のオンライン手続（コンビニ交付を除く）について、あなたの利用状況（家族等の協力を得て利用した場合を含みます）を教えてください。（複数回答可）**

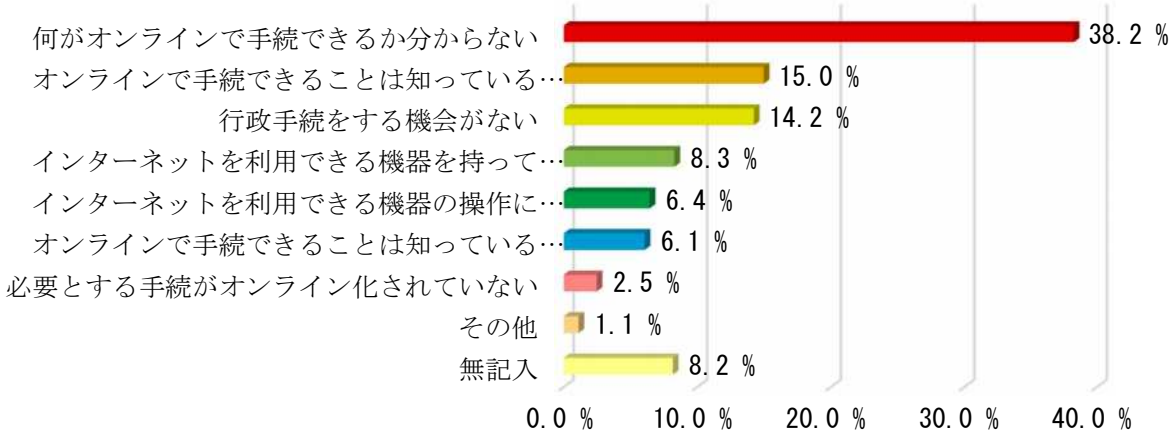
| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | オンライン手続は利用したことがない | 808 名 | 73.2 % |
| 2 | 証明書を取得した | 166 名 | 15.0 % |
| 3 | 助成金の申請をした | 33 名 | 3.0 % |
| 4 | 届出をした | 26 名 | 2.4 % |
| 5 | 手当の支払請求をした | 13 名 | 1.2 % |
| 6 | その他 | 13 名 | 1.2 % |
| 7 | 事業の利用申込をした | 8 名 | 0.7 % |
| 8 | 図書の貸出、転入手続等の予約をした | 8 名 | 0.7 % |
|  | 無記入 | 75 名 | 6.8 % |




【その他】
- ●マイナンバーカードの交付手続等（複数）
- ●新型コロナウイルスワクチン接種の手続（複数）
- ●デジタルポイントの申込

**問２４　問２３で「オンライン手続は利用したことがない」と回答した方にお聞きします。オンライン手続を利用したことがない理由は何ですか。特に当てはまるものを１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 何がオンラインで手続できるか分からない | 309 名 | 38.2 % |
| 2 | オンラインで手続できることは知っているが、職員に確認・相談しながら手続したい | 121 名 | 15.0 % |
| 3 | 行政手続をする機会がない | 115 名 | 14.2 % |
| 4 | インターネットを利用できる機器を持っていない | 67 名 | 8.3 % |
| 5 | インターネットを利用できる機器の操作に不安がある | 52 名 | 6.4 % |
| 6 | オンラインで手続できることは知っているが、市役所に行くことに不便を感じていない | 49 名 | 6.1 % |
| 7 | 必要とする手続がオンライン化されていない | 20 名 | 2.5 % |
| 8 | その他 | 9 名 | 1.1 % |
| | 無記入 | 66 名 | 8.2 % |




【その他】
●情報漏洩に不安がある（複数）
●オンライン手続が石巻市にもあると知らなかった

【集計結果の分析】

問２３は、「オンライン手続を利用したことがない」が全ての年代で最も多い回答となりましたが、他の年代に比較して１８～２９歳はオンライン手続を多く利用している回答となりました。

問２４の「オンライン手続を利用したことがない」理由としては、「何がオンラインで手続できるか分からない」を選択した方が、38.2%と他の理由と比較して多くありました。このため、オンライン化した手続が市民に伝わり、活用が進むよう周知方法を改善する必要があると考えます。また、「職員に確認・相談しながら手続したい」という回答も15.0%あったことから、オンライン手続に対する不安や負担感があることを踏まえたオンライン化の検討が必要と考えます。

**問２５　市役所のオンライン化されていない手続について、オンライン化されると特に便利になると思う手続はありますか。（回答例を参考に簡潔に記載ください。）**

【自由記載】

多くの自由記載回答をいただきましたが、一部類似する内容をまとめた回答は以下のとおりです。

- 市民税、国保税の申告
- 市税等振替手続
- 住まいに関する手続
- 町内会の活動に関わる手続
- スポーツ施設の予約
- マイナンバーカードの更新手続（複数）
- 助成金や補助金の申請（複数）
- 健診の際に非課税世帯で負担金免除になる申請
- 転居の際の手続
- 転入、転出の手続（複数）
- 婚姻届、離婚届、改名届
- 出生届、保育所関連の書類提出、児童手当
- 家族が亡くなった後の色々な手続（複数）
- ＤＶ等の相談の手段として電話がつながらない場合があるため、ＳＮＳの利用により時間外の相談ができるようにすればと思う
- 障害のある方や子ども連れの方、高齢の方等で来庁するのが困難な方が手続することの多い福祉分野の手続（複数）
- 介護関係の申請（複数）
- 介護の担い手の方等の手続
- 視覚障害の方でも記入が必要になる手続
- 福祉手続（特に補聴器）
- 限度額適用、標準負担額減額認定申請
- 貧しい人たちへの福祉分野の手続
- 児童扶養手当、特別児童扶養手当等の更新のための所得状況届
- 児童扶養手当の手続
- 乳幼児医療費の返金手続
- 保育所入所の手続申請
- 児童クラブなど子どもの手続
- 子育て関係の手続（複数）
- 母子家庭の手続
- 健診の予約（複数）
- 健康診断結果の閲覧
- 社会保険から国民健康保険への切り替え
- 学校関係の手続（複数）
- 鳥獣被害対策

・選挙投票（複数）
・建築指導課での概要書の写し、台帳記載事項証明等の証明書の発行手続きや、確認申請の事前手続き
・就労証明
・各種証明書の申請（複数）
・ひとり身所帯における生活向上に向けた情報発信
・若年層が多く利用する手続
・市役所の窓口
・支所で手続を行えるようにする
・２４時間電話対応、駐車スペースの確保
・交通混雑状況
・待ち時間の長い手続
・手続に必要な書類のダウンロード
・どの分野でも
・オンライン化できる手続は全て（複数）

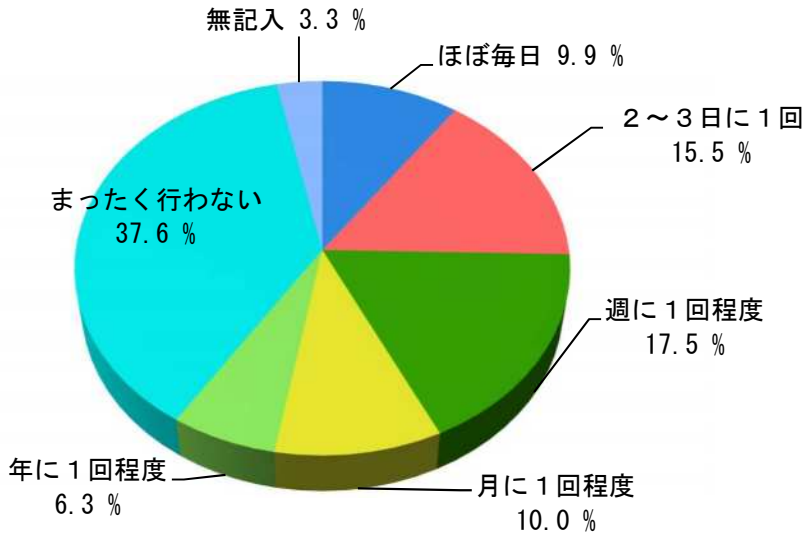
【集計結果の分析】

具体的な手続を含め、オンライン化されると特に便利になると思う手続を把握することができました。保健福祉分野に関する回答数が多く、よりオンライン化が求められていることが分かります。今回把握できた手続は、少ない回答も含めて参考としながら今後のオンライン化を推進していきます。なお、既にオンライン化されている手続の回答も複数あったことから、情報発信の改善も図ります。

# ８　スポーツについて

**問２６　直近１年間の運動頻度はどれくらいですか。１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | ほぼ毎日 | 109 名 | 9.9 % |
| 2 | ２～３日に１回 | 171 名 | 15.5 % |
| 3 | 週に１回程度 | 193 名 | 17.5 % |
| 4 | 月に１回程度 | 110 名 | 10.0 % |
| 5 | 年に１回程度 | 70 名 | 6.3 % |
| 6 | まったく行わない | 415 名 | 37.6 % |
| | 無記入 | 36 名 | 3.3 % |




【集計結果の分析】

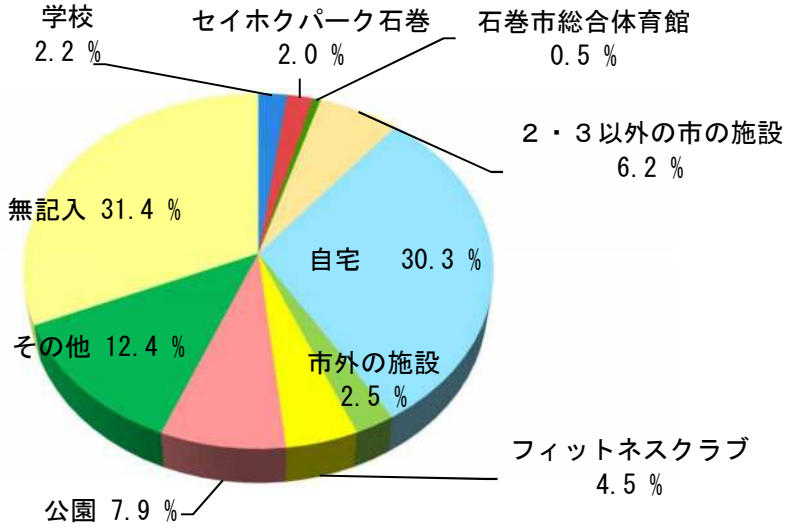
週１回以上の頻度でスポーツを行っていると回答した方が 42.9%、まったく行わないと回答した方が 37.6%となり、二極化が進んでいます。

まったく行わないと回答された方の年齢については、３０歳以上の方がほとんどとなっています。

課題を解決する手法として、運動を全く行わない方でも気軽に楽しめるスポーツイベントを実施し、運動頻度の向上を図りたいと考えております。

問２７　運動やスポーツ活動はどこで行っていますか。主な場所を１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学校 | 24 名 | 2.2 % |
| 2 | セイホクパーク石巻 | 22 名 | 2.0 % |
| 3 | 石巻市総合体育館 | 6 名 | 0.5 % |
| 4 | ２・３以外の市の施設 | 68 名 | 6.2 % |
| 5 | 自宅 | 335 名 | 30.3 % |
| 6 | 市外の施設 | 28 名 | 2.5 % |
| 7 | フィットネスクラブ | 50 名 | 4.5 % |
| 8 | 公園 | 87 名 | 7.9 % |
| 9 | その他 | 137 名 | 12.4 % |
|  | 無記入 | 347 名 | 31.4 % |



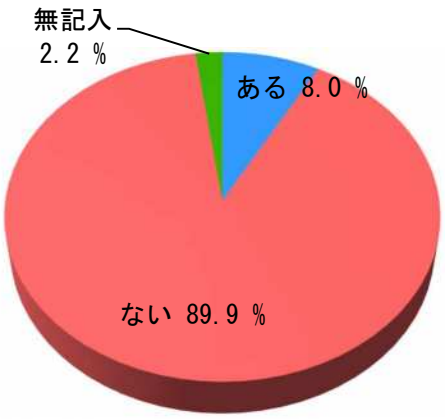

【その他】
●道路　●海　●ゴルフ場　●自宅周辺

【集計結果の分析】

自宅と回答した方が 30.3%で最も多い結果となりました。
学校、セイホクパーク石巻、石巻市総合体育館等の公共施設を利用していると回答した方が 10.9%と少なく、その他で道路や自宅周辺と回答した方が多かったことから、自宅でできる運動や散歩等の手軽に実施できる場所が人気であると考えられます。
今後は公共施設の利用率を向上させるために、ホームページやＳＮＳ等を活用し、市内スポーツ施設の情報発信してまいります。

問２８　運動・スポーツに係るボランティア活動を行ったことがありますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | ある | 88 名 | 8.0 % |
| 2 | ない | 992 名 | 89.9 % |
| | 無記入 | 24 名 | 2.2 % |




【集計結果の分析】

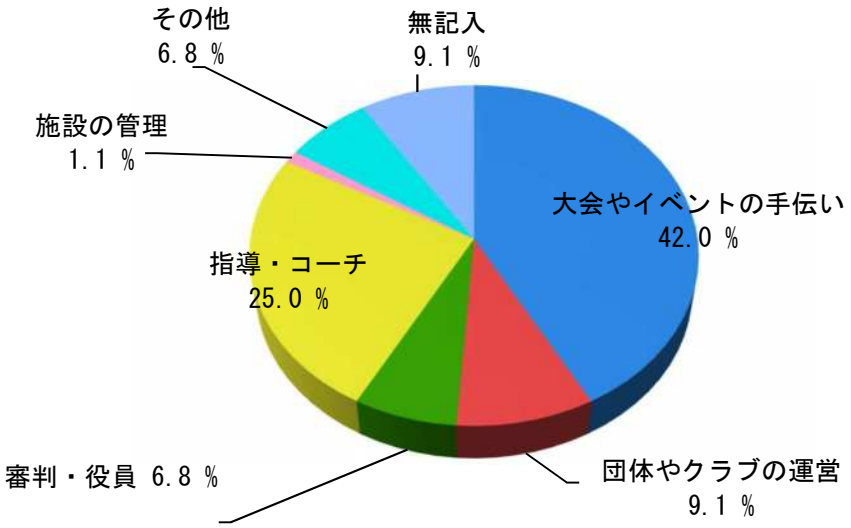
運動・スポーツに係るボランティア活動を行ったことがないと回答した方が、89.9%を占めており、ボランティア活動への参加が低いことが課題となっていることが分かりました。

また、運動・スポーツに係るボランティア活動を行ったことがあると回答された方の年齢は４０歳以上がほとんどとなっています。

今後のスポーツを支える活動であることから、スポーツボランティア活動に関われる場の提供を構築し、スポーツが地域社会づくりに貢献できるような取組ができれば大きな意義に繋がるのではないかと考えております。

問２９　問２８で「ある」と答えた方は、何のボランティア活動でしたか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 大会やイベントの手伝い | 37 名 | 42.0 % |
| 2 | 団体やクラブの運営 | 8 名 | 9.1 % |
| 3 | 審判・役員 | 6 名 | 6.8 % |
| 4 | 指導・コーチ | 22 名 | 25.0 % |
| 5 | 施設の管理 | 1 名 | 1.1 % |
| 6 | その他 | 6 名 | 6.8 % |
| | 無記入 | 8 名 | 9.1 % |




【その他】
●町内の見守り活動　●公園の草取り

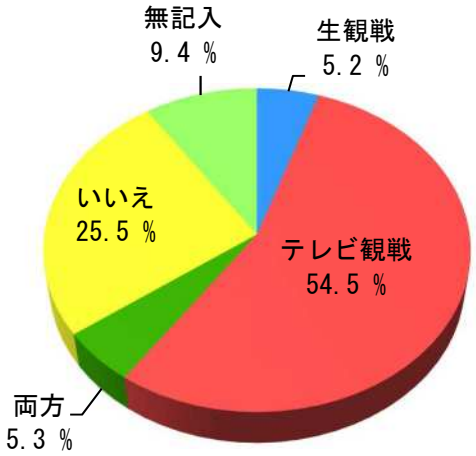
【集計結果の分析】

ボランティア活動の内容は大会やイベントの手伝いと回答した方が 42%で最も多く、指導・コーチと回答された方が 25%で次に多い結果となりました。
ボランティア活動の参加を促進させるため、魅力や地域貢献等の社会的な意義を周知し、情報発信を積極的に実施してまいります。

**問３０　この一年間に、プロスポーツや国際大会などを観戦しましたか。１つ選んでください。**
**また「１．生観戦」「２．テレビ観戦」「３．両方」を選択された方は種目をご記入ください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生観戦 | 57 名 | 5.2 % |
| 2 | テレビ観戦 | 602 名 | 54.5 % |
| 3 | 両方 | 59 名 | 5.3 % |
| 4 | いいえ | 282 名 | 25.5 % |
| | 無記入 | 104 名 | 9.4 % |

※テレビ観戦に YouTube 等の動画配信を含む




【観戦した種目】
●オリンピック　●野球　●サッカー

【集計結果の分析】

プロスポーツや国際大会などの観戦について、「生観戦」、「テレビ観戦」、「両方」と観戦したことがあると回答した方が 65%を占めており、過半数を超えた結果となりました。
中でも「テレビ観戦」が 54.5%で最も多く、回答された方の年齢は３０歳以上の方がほとんどとなっています。
一方で１８～２９歳で「いいえ」と回答した方が、39.2%であり、他の年代よりも回答率が高い結果となりました。
以上のことから、若年層に関心を持ってもらうことが課題となっていることが分かりました。
課題を解決する手法として、本市ホームページやＳＮＳ等を活用し、プロスポーツや国際大会の情報を気軽に知ってもらうための取組を実施してまいります。

# ９　石巻市の環境について

**問３１　あなたは石巻市の環境についてどう思いますか。各項目につき１つ選んでください。**

ア　多くの自然や生物に恵まれている

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 思う | 333 名 | 30.2 % |
| 2 | どちらかというとそう思う | 443 名 | 40.1 % |
| 3 | どちらともいえない | 210 名 | 19.0 % |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 35 名 | 3.2 % |
| 5 | 思わない | 30 名 | 2.7 % |
| | 無記入 | 53 名 | 4.8 % |

イ　公園や道路、宅地などの緑が豊か

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 思う | 195 名 | 17.7 % |
| 2 | どちらかというとそう思う | 386 名 | 35.0 % |
| 3 | どちらともいえない | 311 名 | 28.2 % |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 105 名 | 9.5 % |
| 5 | 思わない | 47 名 | 4.3 % |
| | 無記入 | 60 名 | 5.4 % |

ウ　田や畑の農地の緑が豊か

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 思う | 355 名 | 32.2 % |
| 2 | どちらかというとそう思う | 442 名 | 40.0 % |
| 3 | どちらともいえない | 183 名 | 16.6 % |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 45 名 | 4.1 % |
| 5 | 思わない | 22 名 | 2.0 % |
| | 無記入 | 57 名 | 5.2 % |

エ　自然や文化、歴史などと調和した街並みが美しい

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 思う | 61 名 | 5.5 % |
| 2 | どちらかというとそう思う | 180 名 | 16.3 % |
| 3 | どちらともいえない | 473 名 | 42.8 % |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 200 名 | 18.1 % |
| 5 | 思わない | 117 名 | 10.6 % |
| | 無記入 | 73 名 | 6.6 % |

オ　空気がきれい

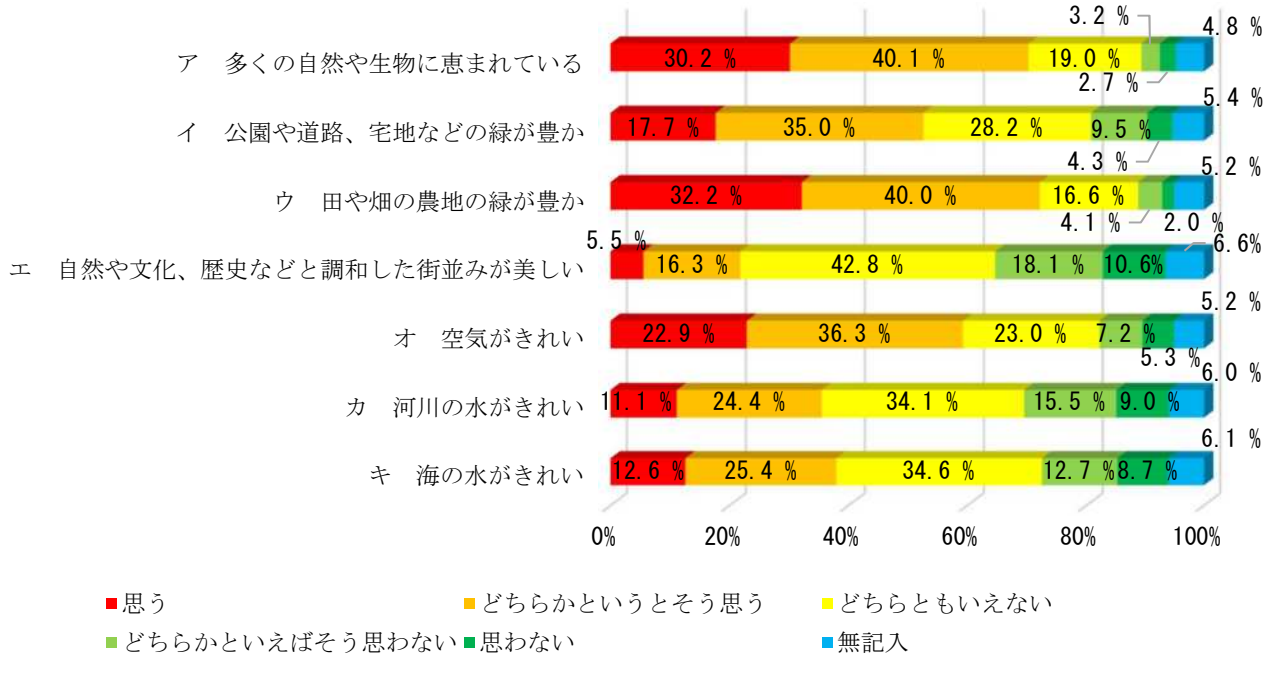
| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 思う | 253 名 | 22.9 % |
| 2 | どちらかというとそう思う | 401 名 | 36.3 % |
| 3 | どちらともいえない | 254 名 | 23.0 % |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 80 名 | 7.2 % |
| 5 | 思わない | 59 名 | 5.3 % |
| | 無記入 | 57 名 | 5.2 % |

カ　河川の水がきれい

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 思う | 123 名 | 11.1 % |
| 2 | どちらかというとそう思う | 269 名 | 24.4 % |
| 3 | どちらともいえない | 376 名 | 34.1 % |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 171 名 | 15.5 % |
| 5 | 思わない | 99 名 | 9.0 % |
| | 無記入 | 66 名 | 6.0 % |

キ　海の水がきれい

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 思う | 139 名 | 12.6 % |
| 2 | どちらかというとそう思う | 280 名 | 25.4 % |
| 3 | どちらともいえない | 382 名 | 34.6 % |
| 4 | どちらかといえばそう思わない | 140 名 | 12.7 % |
| 5 | 思わない | 96 名 | 8.7 % |
| | 無記入 | 67 名 | 6.1 % |



【集計結果の分析】

石巻の環境については、多くの自然や生物に恵まれていると思う市民が多い結果となりました。本市は海、山、川など豊かな自然に囲まれ、そこには多種多様な生物が生息・生育していることから、これらを地域の財産として後世に引き継いでいくため、人の暮らしと自然が調和する地域づくりに取り組んでいく必要があります。

また、公園や道路、宅地などの緑が豊かだと思う市民が半数以上となりました。宅地開発や道路整備を進める際には緑化に配慮し、自然環境を保全しながら実施することが求められ、身近に緑とふれあえる環境を創出していく必要があります。

次に、田や畑の農地の緑が豊かだと思っている市民に関しても、多くの市民が豊かであるという結果となりました。自然と調和した良好な景観はふるさとの誇り、そして地域の魅力であることから、その保全や創出に取り組んでいく必要があります。

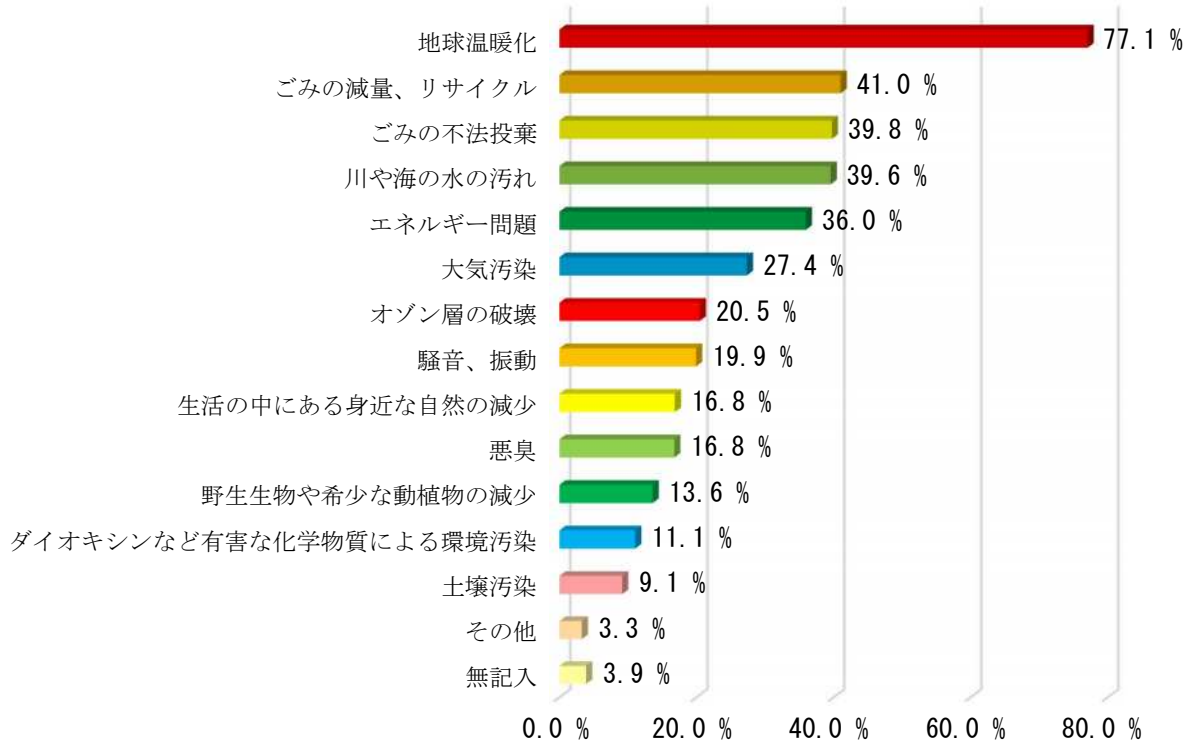
さらに、空気がきれいだと思っている市民が半数以上となりました。市民ひとりひとりが健康な生活を送るために、大気を安全な状態に保つことが必要不可欠です。そのため、日常生活を取り巻く環境について、市民が安心して暮らすことのできる良好な状態の維持に向け「環境負荷の低減」に取り組んでいく必要があります。

一方で、街並みの美しい、河川の水がきれいや海の水がきれいだと思わない市民が多い結果となりました。魅力あるまちづくりに向けて、地域の景観に目を向け、自然や文化、歴史などを学び、地域特性を活かした景観の形成を推進し、魅力あるまちづくりを推進していく必要があります。

また、河川や海の汚濁は、結果として水質汚染にもつながるため、水環境の監視を行いながら安全で清らかな水の確保に向けて取り組んでまいります。

## 問３２　あなたが関心のある環境問題をすべて選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 地球温暖化 | 851 名 | 77.1 % |
| 2 | ごみの減量、リサイクル | 453 名 | 41.0 % |
| 3 | ごみの不法投棄 | 439 名 | 39.8 % |
| 4 | 川や海の水の汚れ | 437 名 | 39.6 % |
| 5 | エネルギー問題 | 397 名 | 36.0 % |
| 6 | 大気汚染 | 302 名 | 27.4 % |
| 7 | オゾン層の破壊 | 226 名 | 20.5 % |
| 8 | 騒音、振動 | 220 名 | 19.9 % |
| 9 | 生活の中にある身近な自然の減少 | 186 名 | 16.8 % |
| 10 | 悪臭 | 185 名 | 16.8 % |
| 11 | 野生生物や希少な動植物の減少 | 150 名 | 13.6 % |
| 12 | ダイオキシンなど有害な化学物質による環境汚染 | 122 名 | 11.1 % |
| 13 | 土壌汚染 | 101 名 | 9.1 % |
| 14 | その他 | 36 名 | 3.3 % |
|  | 無記入 | 43 名 | 3.9 % |




【その他】
●野生動物　●空き家　●原発

【集計結果の分析】

関心のある環境問題について「地球温暖化」と回答した方が 77.1%となり、最も市民の関心のある結果となりました。また、「ごみの減量、リサイクル」、「ごみの不法投棄」、「川や海の水の汚れ」、「エネルギー問題」の項目に関しては、昨年度調査と同様に関心が高くなっていることが分かりました。

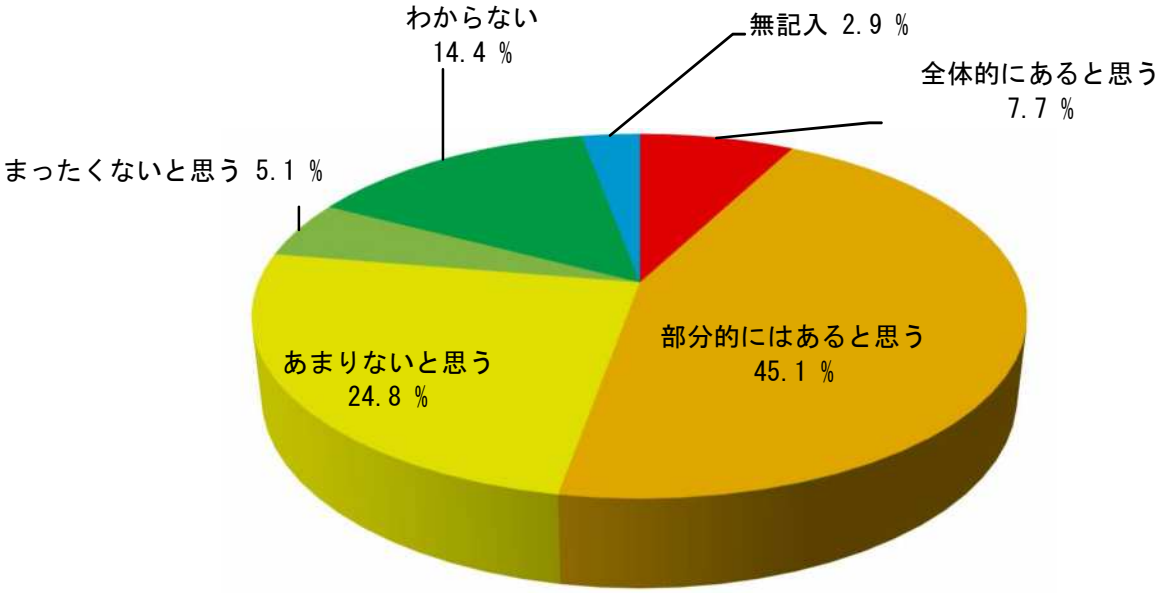
以上のことから、環境問題を身近な問題として捉え、ひとりひとりが環境問題について正しい知識を持ち、正しく行動する「環境市民」として生活していくことが強く求められます。

今後、環境関連イベントや環境学習の場において、「環境市民」の育成に努めてまいります。

# １０　地域福祉について

問３３　あなたの住んでいる地域は困っているときの助け合いや支え合いが行われていると思いますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 全体的にあると思う | 85 名 | 7.7 % |
| 2 | 部分的にはあると思う | 498 名 | 45.1 % |
| 3 | あまりないと思う | 274 名 | 24.8 % |
| 4 | まったくないと思う | 56 名 | 5.1 % |
| 5 | わからない | 159 名 | 14.4 % |
| | 無記入 | 32 名 | 2.9 % |




【集計結果の分析】

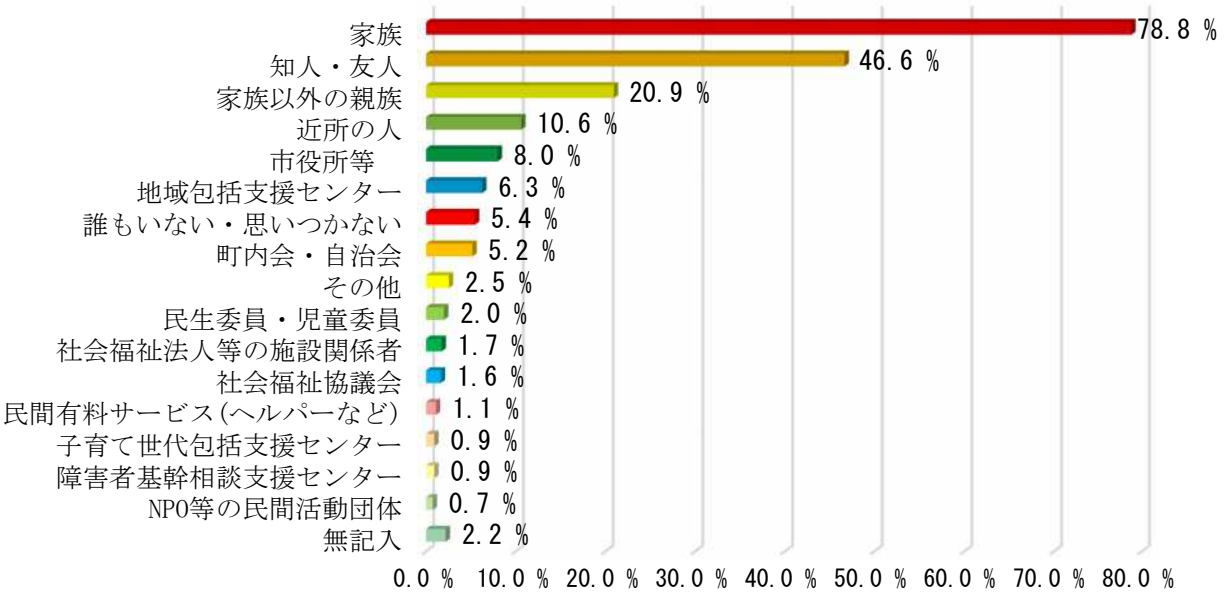
地域で困っているときの助け合いや支え合いが「全体的にあると思う」が 7.7%、「部分的にはあると思う」が 45.1%であり、助け合いや支え合いが行われていると思っている人は 52.8%となっています。

一方、「あまりないと思う」が 24.8%、「まったくないと思う」が 5.1%であり、合わせて 29.9%となり、地域の助け合いや支え合いが行われていないと感じる人が前年度に比べ増えていることが伺えます。

現代社会の課題でもある地域での関係性の希薄化等が大きな要因と考えられますが、困っている人を地域住民同士で助け合い支え合うという意識を醸成するため、地域住民による互助活動の促進や次代の担い手である子ども達に対する福祉教育等の推進を進めていく必要があると考えます。

**問３４　あなたは日常生活の困りごとを誰に相談しますか。あてはまるものをすべて選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 家族 | 870 名 | 78.8 % |
| 2 | 知人・友人 | 515 名 | 46.6 % |
| 3 | 家族以外の親族 | 231 名 | 20.9 % |
| 4 | 近所の人 | 117 名 | 10.6 % |
| 5 | 市役所等 | 88 名 | 8.0 % |
| 6 | 地域包括支援センター | 69 名 | 6.3 % |
| 7 | 誰もいない・思いつかない | 60 名 | 5.4 % |
| 8 | 町内会・自治会 | 57 名 | 5.2 % |
| 9 | その他 | 28 名 | 2.5 % |
| 10 | 民生委員・児童委員 | 22 名 | 2.0 % |
| 11 | 社会福祉法人等の施設関係者 | 19 名 | 1.7 % |
| 12 | 社会福祉協議会 | 18 名 | 1.6 % |
| 13 | 民間有料サービス(ヘルパーなど) | 12 名 | 1.1 % |
| 14 | 子育て世代包括支援センター | 10 名 | 0.9 % |
| 15 | 障害者基幹相談支援センター | 10 名 | 0.9 % |
| 16 | NPO 等の民間活動団体 | 8 名 | 0.7 % |
|  | 無記入 | 24 名 | 2.2 % |



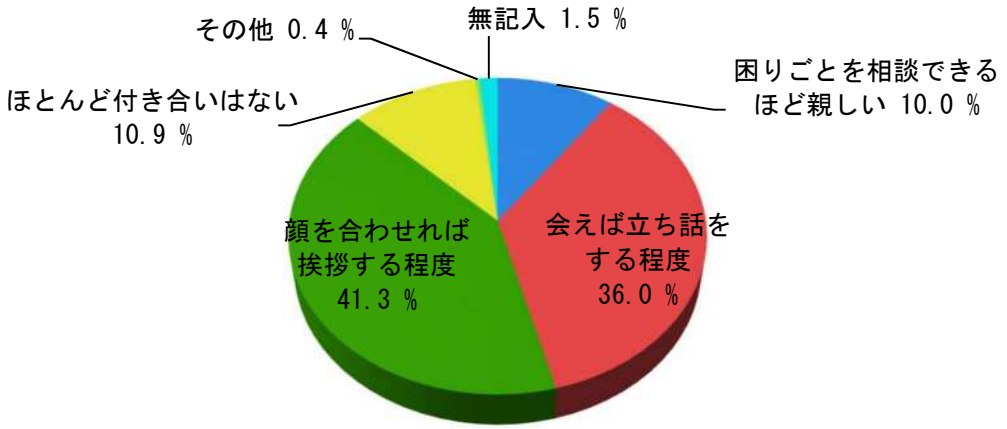

【集計結果の分析】

日常生活の困りごとを誰に相談するかという質問では「家族」が 78.8%で最も多く、次いで「知人・友人」が 46.6%、「家族以外の親族」が 20.9%、「近所の人」10.6%と続いております。また、「家族」に相談する人が 80%弱となっており、「知人・友人」についても前年度に比べ微増であったことから、身近な人への相談がやはり多数を占めている一方、「誰もいない・思いつかない」が 5.4%となっており、公的機関への相談についても前年度に比べ減少傾向にあります。

地域での孤立防止のための対策や各種相談窓口の周知について、市、関係機関その他の多機関が連携し、多様な媒体を通じて周知に努める必要があると考えます。

問３５　ご近所付き合いについてお聞きします。あなたは、ご近所とどの程度お付き合いをしていますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 困りごとを相談できるほど親しい | 110 名 | 10.0 % |
| 2 | 会えば立ち話をする程度 | 397 名 | 36.0 % |
| 3 | 顔を合わせれば挨拶する程度 | 456 名 | 41.3 % |
| 4 | ほとんど付き合いはない | 120 名 | 10.9 % |
| 5 | その他 | 4 名 | 0.4 % |
| | 無記入 | 17 名 | 1.5 % |




【集計結果の分析】

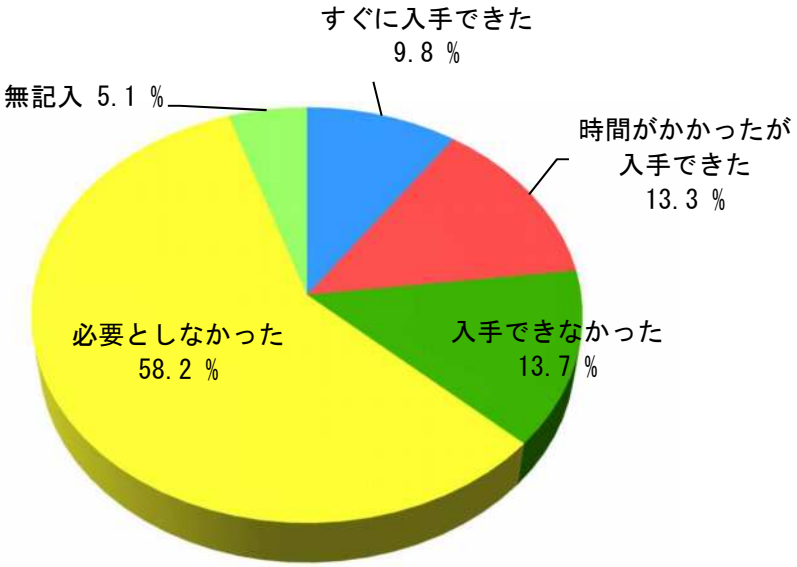
ご近所付き合いについて、「困りごとを相談できるほど親しい」が 10.0%、「会えば立ち 話をする程度」が 36.0%と、ご近所の人とつながりのある人が 46.0%となっています。

「顔を合わせれば挨拶する程度」が 41.3%となっており、今後親しいお付き合いに発展するような可能性はありますが、親しくなるきっかけなどが必要と考えます。

一方、「ほとんど付き合いはない」が 10.9%に達しており、このような方々が地 域での孤立を深めていくことのないよう、地域コミュニティや学習活動、ボランティア活動への参加など、社会参加を促進するための支援策が必要であると考えます。

問３６　あなたは、地域の助け合いやボランティア活動に関する情報や知識を必要としたときに、入手することができましたか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | すぐに入手できた | 108 名 | 9.8 % |
| 2 | 時間がかかったが入手できた | 147 名 | 13.3 % |
| 3 | 入手できなかった | 151 名 | 13.7 % |
| 4 | 必要としなかった | 642 名 | 58.2 % |
|  | 無記入 | 56 名 | 5.1 % |




【集計結果の分析】

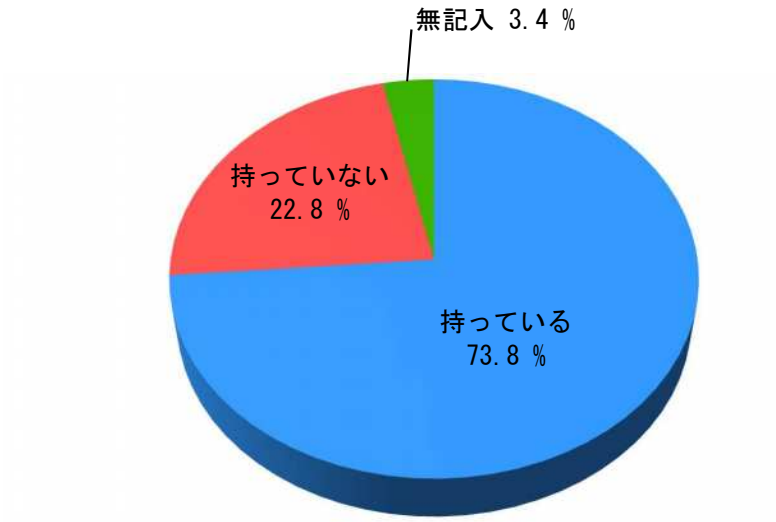
地域の助け合い、ボランティア活動に関する情報や知識の入手について、「すぐに入手 できた」が 9.8%、「時間がかかったが入手できた」が 13.3%で、合わせて 23.1%の人 が入手できたと回答しています。

一方、「入手できなかった」が 13.7%と高くなっていることがわかります。

市や関係機関その他の多機関が連携し、多様な媒体を通じて周知に努める必要があると考えます。

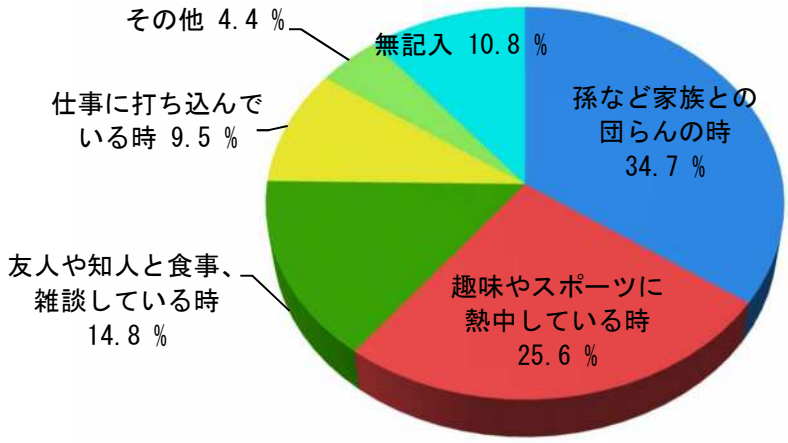
問３７　あなたは普段の生活で生きがいを持っていますか。１つ選んでください。
（６０歳以上対象）

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 持っている | 472 名 | 73.8 % |
| 2 | 持っていない | 146 名 | 22.8 % |
| | 無記入 | 22 名 | 3.4 % |



**問３８　問３７で「１．持っている」と回答した方にお聞きします。どんな時に生きがいを感じますか。１つ選んでください。（６０歳以上対象）**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 孫など家族との団らんの時 | 164 名 | 34.7 % |
| 2 | 趣味やスポーツに熱中している時 | 121 名 | 25.6 % |
| 3 | 友人や知人と食事、雑談している時 | 70 名 | 14.8 % |
| 4 | 仕事に打ち込んでいる時 | 45 名 | 9.5 % |
| 5 | その他 | 21 名 | 4.4 % |
| | 無記入 | 51 名 | 10.8 % |




【その他】
●趣味や旅行等　●ボランティア活動　●ペットとのふれあい

【集計結果の分析】

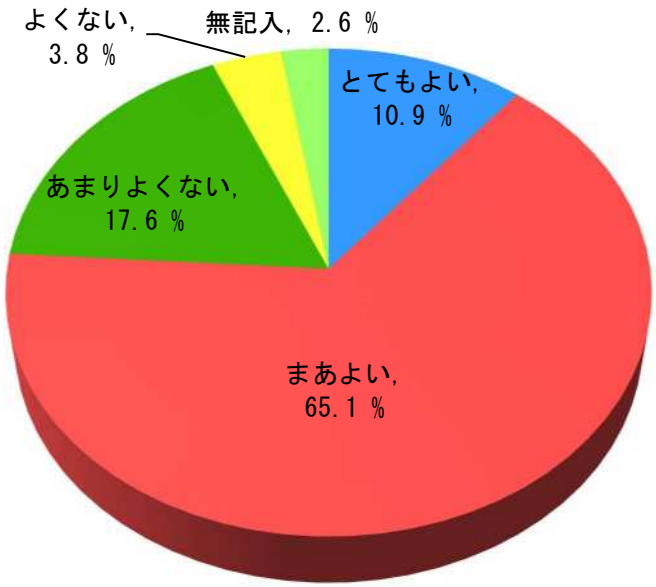
問３７の生きがいについて、６０歳以上の方のうち「持っている」と回答した方が73.8%を占めており、昨年の72.6%に比べて1.2%増加しています。

問３８の「孫など家族との団らんの時」が34.7%、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」が25.6%、「友人や知人と食事、雑談している時」が14.8%、「仕事に打ち込んでいる時」が9.5%となっています。

昨年の調査と比較すると「友人や知人と食事、雑談している時」の割合が4.1%増加しています。外出控え等、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まっていることも一因と考えられますが、今後も外出・交流のきっかけとなるよう、引き続き「高齢者の生きがいと創造の事業」等を充実させ、参加しやすい健康・介護予防事業の整備に取り組みます。

問３９　あなたの健康状態について、１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | とてもよい | 120 名 | 10.9 % |
| 2 | まあよい | 719 名 | 65.1 % |
| 3 | あまりよくない | 194 名 | 17.6 % |
| 4 | よくない | 42 名 | 3.8 % |
| | 無記入 | 29 名 | 2.6 % |




【集計結果の分析】

健康状態について「とてもよい」、「まあよい」、合わせて 76.0%の方が健康状態は良いと回答しています。
一方で、「あまりよくない」、「よくない」、合わせて 21.4%の方が健康状態に不安を抱いていることが伺えます。
このことから、多くの市民に継続的な健康づくりを地域全体で推進していく ことが必要であると考えます。

問４０　あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 内容も知っている | 311 名 | 28.2 % |
| 2 | 名前は聞いたことがある | 471 名 | 42.7 % |
| 3 | 全く知らない | 297 名 | 26.9 % |
| | 無記入 | 25 名 | 2.3 % |

【集計結果の分析】

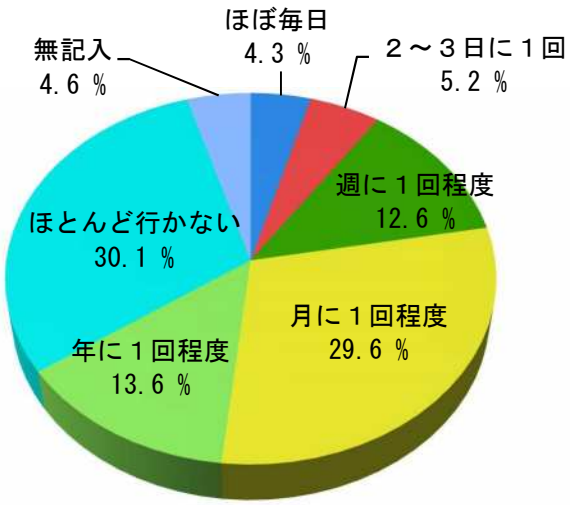
「成年後見制度」について「内容も知っている」と回答した方が 28.2%と、令和５年調査の 29.1%に比べて 0.9%減少していますが、全国的にも認知症患者の増加に比して、制度の利用者が増えていないとされています。

今後も引き続き一般の方へ向けた冊子等による周知のほか、地域包括支援センター、医療機関等との連携を強化し、認知症などにより判断能力が充分でない高齢者やその家族が、制度を利用しやすい環境の整備に努めます。

# １１　中心市街地の活性化について

**問４１　中心市街地へ出掛ける（利用する）頻度はどれくらいですか。１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | ほぼ毎日 | 48 名 | 4.3 % |
| 2 | ２～３日に１回 | 57 名 | 5.2 % |
| 3 | 週に１回程度 | 139 名 | 12.6 % |
| 4 | 月に１回程度 | 327 名 | 29.6 % |
| 5 | 年に１回程度 | 150 名 | 13.6 % |
| 6 | ほとんど行かない | 332 名 | 30.1 % |
| | 無記入 | 51 名 | 4.6 % |

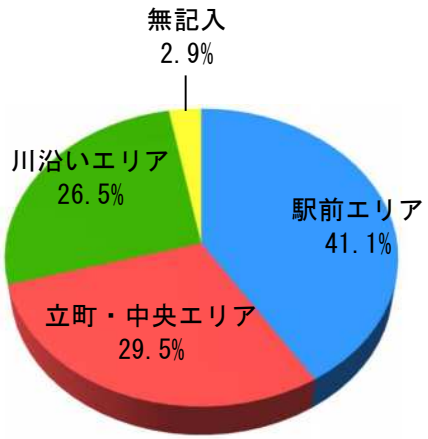



【集計結果の分析】

中心市街地の利用状況について、「月に１回程度」以上利用すると回答した方は51.7%を占め、前回調査（令和４年度）と比べ9.7%減少しました。一方、「ほとんど行かない」と回答した方は30.1%を占め、前回調査と比較して5.8%増加しておりますことから、市民の中心市街地への来訪頻度が低下していることがわかりました。市民の中心市街地への来訪頻度を高めるため、空き店舗を活用した魅力的な店舗の出店支援等を進めてまいります。

**問４２　中心市街地では主にどのエリアに訪れますか。１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 駅前エリア | 296 名 | 41.1% |
| 2 | 立町・中央エリア | 213 名 | 29.5% |
| 3 | 川沿いエリア | 191 名 | 26.5% |
| | 無記入 | 21 名 | 2.9% |



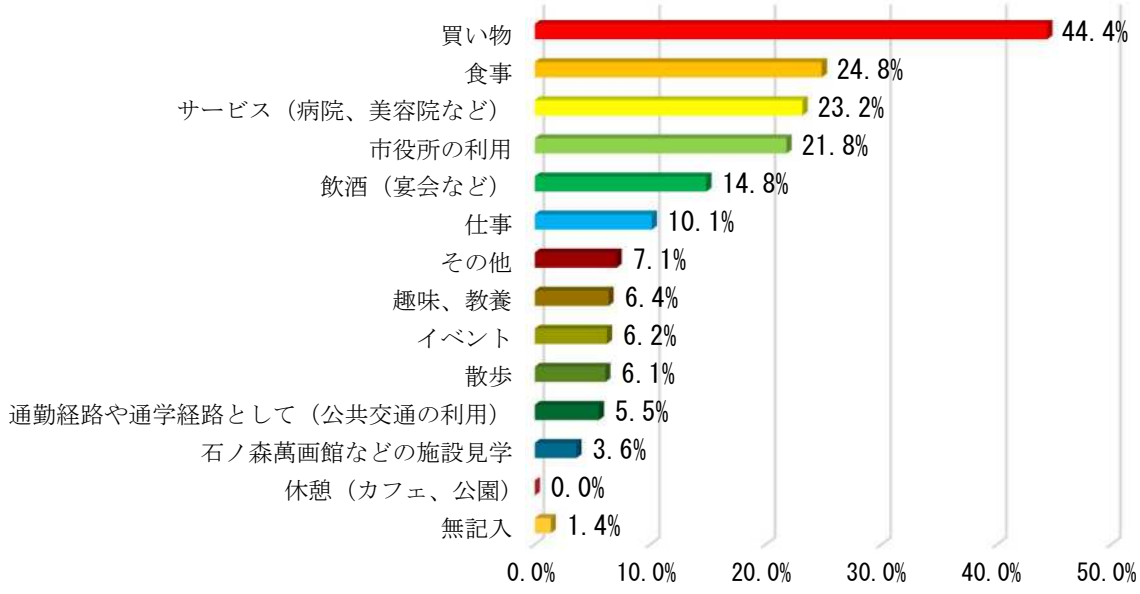

【集計結果の分析】

「駅前エリア」と回答した方が41.1%と最も多く、次いで「立町・中央エリア」、「川沿いエリア」の順に多い結果となりました。

「駅前エリア」については、来訪者数自体は多いものの、それが周辺の歩行者通行量の増加につながっていないことが伺えますことから、中心市街地の回遊性向上のための事業展開を進めてまいります。

問４３　どのような目的で中心市街地に出掛けますか（利用しますか）。３つまで選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 買い物 | 320 名 | 44.4% |
| 2 | 食事 | 179 名 | 24.8% |
| 3 | サービス（病院、美容院など） | 167 名 | 23.2% |
| 4 | 市役所の利用 | 157 名 | 21.8% |
| 5 | 飲酒（宴会など） | 107 名 | 14.8% |
| 6 | 仕事 | 73 名 | 10.1% |
| 7 | その他 | 51 名 | 7.1% |
| 8 | 趣味、教養 | 46 名 | 6.4% |
| 9 | イベント | 45 名 | 6.2% |
| 10 | 散歩 | 44 名 | 6.1% |
| 11 | 通勤経路や通学経路として（公共交通の利用） | 40 名 | 5.5% |
| 12 | 石ノ森萬画館などの施設見学 | 26 名 | 3.6% |
| 13 | 休憩（カフェ、公園） | 0 名 | 0.0% |
|  | 無記入 | 10 名 | 1.4% |




【その他】
●銀行　●送迎　●税務署

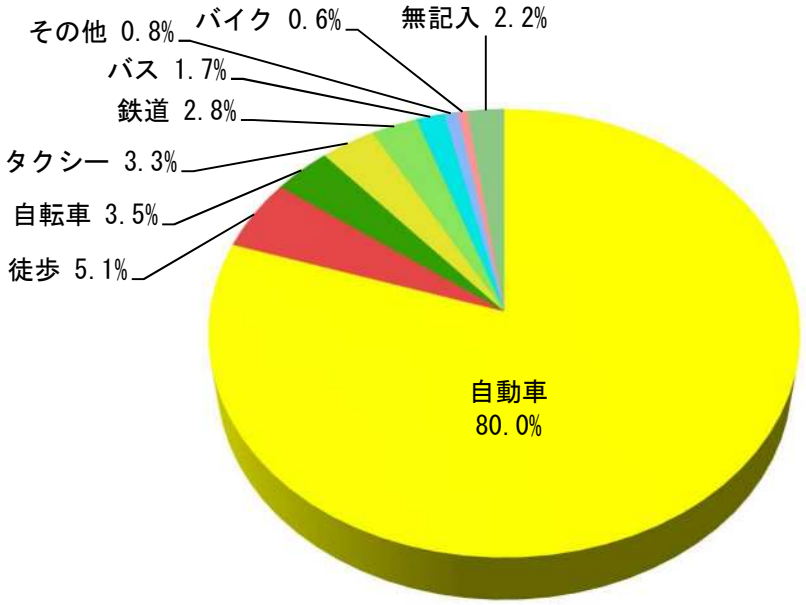
【集計結果の分析】

中心市街地に出かける目的は「買い物」が44.4%と最も多く、次いで「食事」、「サービス（病院、美容院）」、「市役所の利用」の順となりました。一方、「休憩（カフェ、公園）」と回答した方は０人で、中心市街地が憩いの場として市民に認知されていないことがわかりました。

この結果を踏まえ、買い物や通院等で中心市街地に来た方がくつろげるような居場所づくりを進めてまいります。

問４４　主にどのような交通手段で訪れていますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自動車 | 577 名 | 80.0% |
| 2 | 徒歩 | 37 名 | 5.1% |
| 3 | 自転車 | 25 名 | 3.5% |
| 4 | タクシー | 24 名 | 3.3% |
| 5 | 鉄道 | 20 名 | 2.8% |
| 6 | バス | 12 名 | 1.7% |
| 7 | その他 | 6 名 | 0.8% |
| 8 | バイク | 4 名 | 0.6% |
|  | 無記入 | 16 名 | 2.2% |




【その他】
●送迎

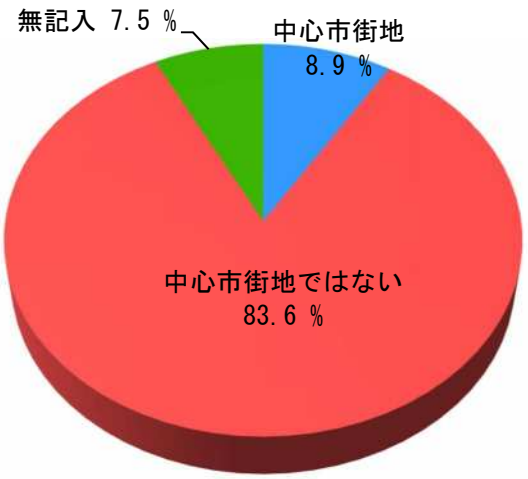
【集計結果の分析】

「自動車」が 80.0%となり突出して多い結果となりました。前回調査と比較しても 3.8%増加しており、公共交通機関等の利用など自動車以外の手段による来訪が増えていないことがわかりました。

街なかのアクセス向上の取組を進めるとともに、自動車で来訪された方が中心市街地を歩いて回遊したくなるような仕組みづくりを検討してまいります。

**問４５　現在のお住まいはどちらですか。どちらか選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中心市街地 | 98 名 | 8.9 % |
| 2 | 中心市街地ではない | 923 名 | 83.6 % |
| | 無記入 | 83 名 | 7.5 % |




**問４６　中心市街地の状況について、５年前（2019 年）と比較してどのように感じていますか。各項目につき１つ選んでください。**

ア　住む場所としての魅力

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 23 名 | 2.1 % |
| 2 | 良くなった | 185 名 | 16.8 % |
| 3 | 変わらない | 561 名 | 50.8 % |
| 4 | 悪くなった | 149 名 | 13.5 % |
| 5 | かなり悪くなった | 51 名 | 4.6 % |
| | 無記入 | 135 名 | 12.2 % |

イ　観光地（遊びに行く場所）としての魅力

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 20 名 | 1.8 % |
| 2 | 良くなった | 219 名 | 19.8 % |
| 3 | 変わらない | 552 名 | 50.0 % |
| 4 | 悪くなった | 120 名 | 10.9 % |
| 5 | かなり悪くなった | 52 名 | 4.7 % |
| | 無記入 | 141 名 | 12.8 % |

ウ．飲食に行く場所としての魅力

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 14 名 | 1.3 % |
| 2 | 良くなった | 204 名 | 18.5 % |
| 3 | 変わらない | 534 名 | 48.4 % |
| 4 | 悪くなった | 159 名 | 14.4 % |
| 5 | かなり悪くなった | 53 名 | 4.8 % |
| | 無記入 | 140 名 | 12.7 % |

エ．買い物に行く場所としての魅力

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 19 名 | 1.7 % |
| 2 | 良くなった | 137 名 | 12.4 % |
| 3 | 変わらない | 505 名 | 45.7 % |
| 4 | 悪くなった | 197 名 | 17.8 % |
| 5 | かなり悪くなった | 111 名 | 10.1 % |
| | 無記入 | 135 名 | 12.2 % |

オ．イベントや市民活動の開催場所としての魅力

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 25 名 | 2.3 % |
| 2 | 良くなった | 222 名 | 20.1 % |
| 3 | 変わらない | 542 名 | 49.1 % |
| 4 | 悪くなった | 114 名 | 10.3 % |
| 5 | かなり悪くなった | 50 名 | 4.5 % |
| | 無記入 | 151 名 | 13.7 % |

カ．街並みの景観や歩行空間の魅力

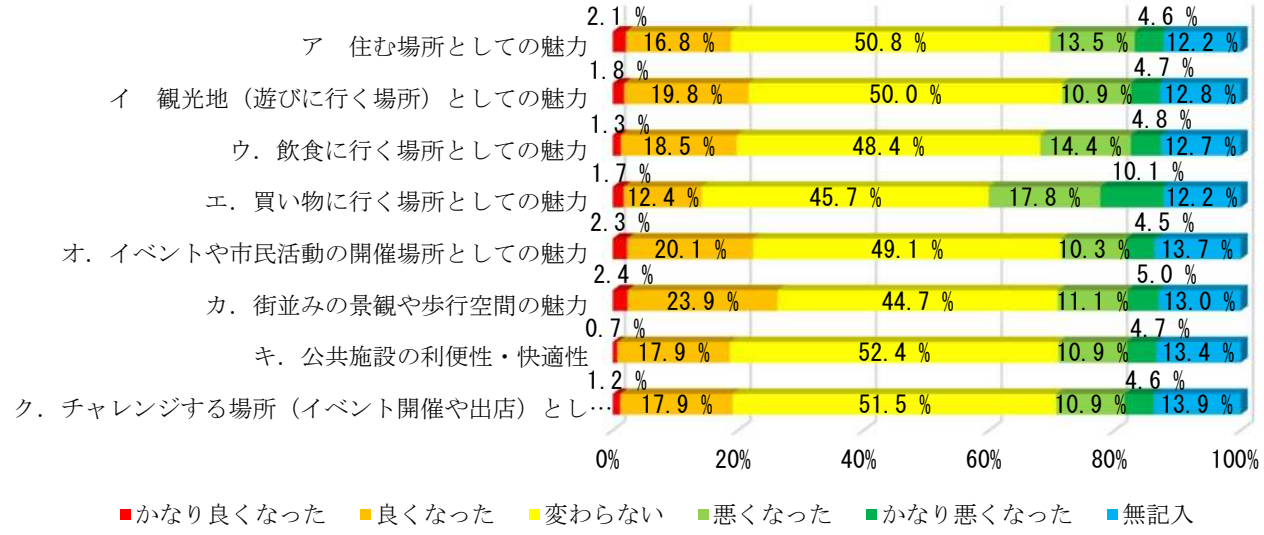
| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 26 名 | 2.4 % |
| 2 | 良くなった | 264 名 | 23.9 % |
| 3 | 変わらない | 493 名 | 44.7 % |
| 4 | 悪くなった | 122 名 | 11.1 % |
| 5 | かなり悪くなった | 55 名 | 5.0 % |
| | 無記入 | 144 名 | 13.0 % |

キ．公共施設の利便性・快適性

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 8 名 | 0.7 % |
| 2 | 良くなった | 198 名 | 17.9 % |
| 3 | 変わらない | 578 名 | 52.4 % |
| 4 | 悪くなった | 120 名 | 10.9 % |
| 5 | かなり悪くなった | 52 名 | 4.7 % |
| | 無記入 | 148 名 | 13.4 % |

ク．チャレンジする場所（イベント開催や出店）としての魅力

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり良くなった | 13 名 | 1.2 % |
| 2 | 良くなった | 198 名 | 17.9 % |
| 3 | 変わらない | 569 名 | 51.5 % |
| 4 | 悪くなった | 120 名 | 10.9 % |
| 5 | かなり悪くなった | 51 名 | 4.6 % |
| | 無記入 | 153 名 | 13.9 % |

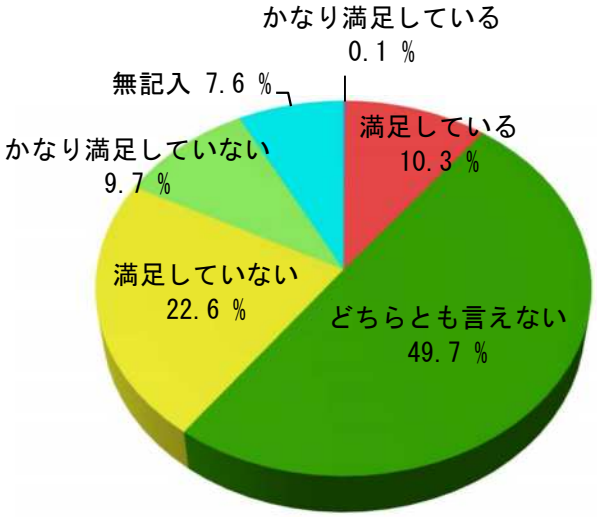



【集計結果の分析】

８項目全てにおいて、「変わらない」と回答した方が最も多く、「住む場所としての魅力」、「観光地（遊びに行く場所）としての魅力」、「公共施設の利便性・快適性」、「チャレンジする場所（イベント開催や出店）としての魅力」については 50%以上の方が「変わらない」と回答しており、市民にとって中心市街地の魅力が低下していることが分かりました。また、「街並みの景観や歩行空間の魅力」、「イベントや市民活動の開催場所としての魅力」、「観光地（遊びに行く場所）としての魅力」については、20%を超える方が「かなり良くなった」、「良くなった」と回答しており、イベントや観光の側面においては魅力が高まってきていることが伺えました。一方、「買い物に行く場所としての魅力」については、「悪くなった」、「かなり悪くなった」と回答した方が 27.9%にものぼっておりますことから、商店街の求心力向上のため、空き店舗の活用支援などを積極的に進めてまりいます。

問４７　現在の中心市街地の状況に、満足していますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | かなり満足している | 1 名 | 0.1 % |
| 2 | 満足している | 114 名 | 10.3 % |
| 3 | どちらとも言えない | 549 名 | 49.7 % |
| 4 | 満足していない | 249 名 | 22.6 % |
| 5 | かなり満足していない | 107 名 | 9.7 % |
| | 無記入 | 84 名 | 7.6 % |



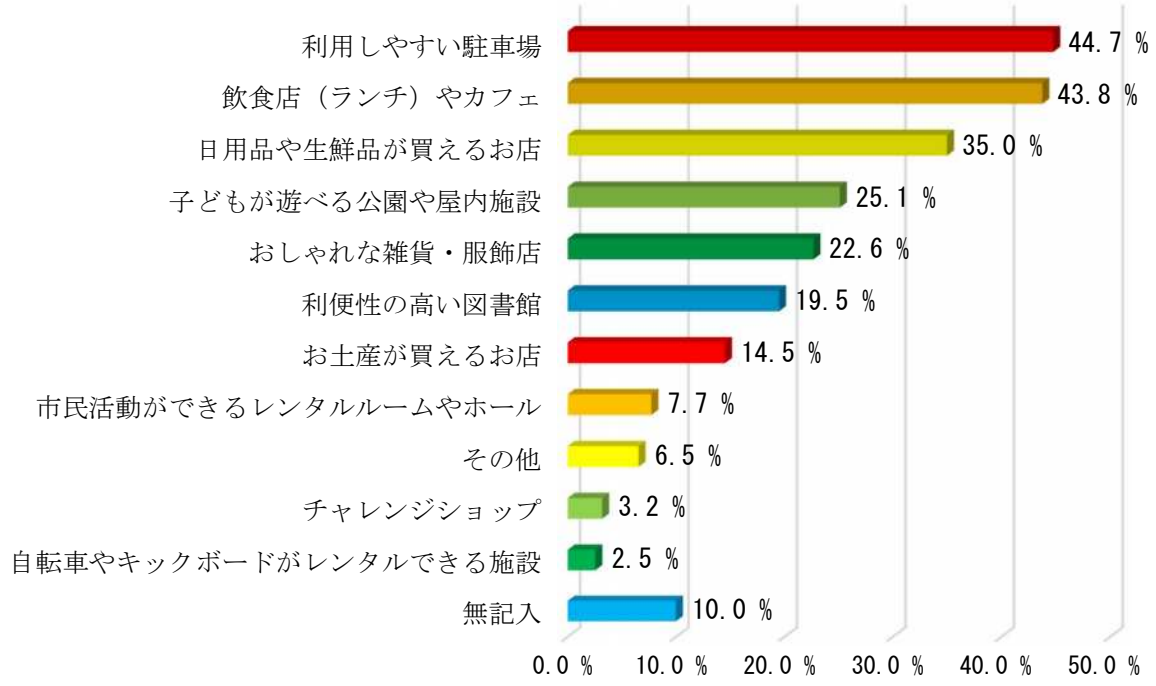

【集計結果の分析】

「かなり満足している」、「満足している」と回答した方は10.4%となり、前回調査から2.3%減少しました。また、「満足していない」、「かなり満足していない」と回答した方は32.3%となり、前回調査から2.5%増加しており、中心市街地の状況について満足度が低いことがわかりました。

この結果を踏まえ、中心市街地の満足度を高めるため、街づくり会社や民間事業者と連携しながら、より魅力的なまちづくりを進めてまいります。

**問４８　中心市街地の街づくりに望むものは何ですか。３つまで選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 利用しやすい駐車場 | 494 名 | 44.7 % |
| 2 | 飲食店（ランチ）やカフェ | 483 名 | 43.8 % |
| 3 | 日用品や生鮮品が買えるお店 | 386 名 | 35.0 % |
| 4 | 子どもが遊べる公園や屋内施設 | 277 名 | 25.1 % |
| 5 | おしゃれな雑貨・服飾店 | 250 名 | 22.6 % |
| 6 | 利便性の高い図書館 | 215 名 | 19.5 % |
| 7 | お土産が買えるお店 | 160 名 | 14.5 % |
| 8 | 市民活動ができるレンタルルームやホール | 85 名 | 7.7 % |
| 9 | その他 | 72 名 | 6.5 % |
| 10 | チャレンジショップ | 35 名 | 3.2 % |
| 11 | 自転車やキックボードがレンタルできる施設 | 28 名 | 2.5 % |
|  | 無記入 | 110 名 | 10.0 % |




【その他】
●一方通行の解消　●趣味の店　●若い人が集まれる施設

【集計結果の分析】

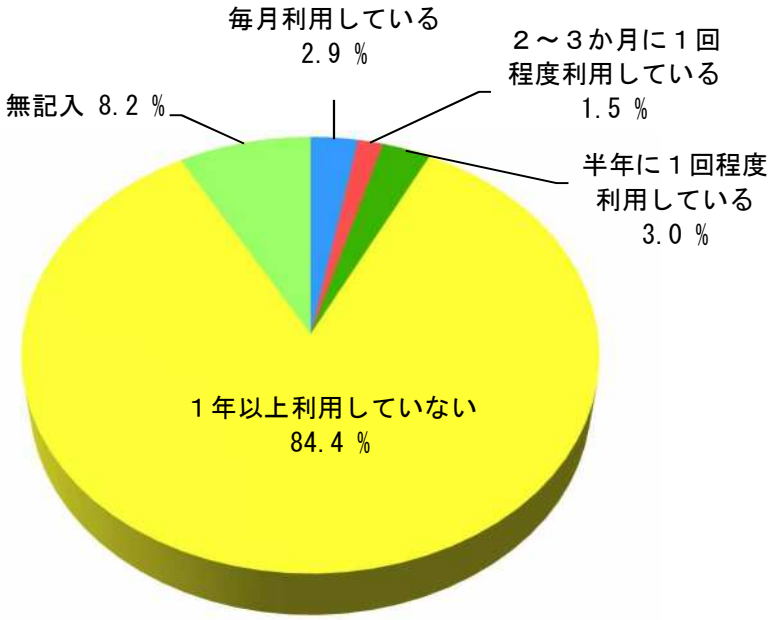
「利用しやすい駐車場」の 44.7%が最も多く、次いで「飲食店（ランチ）やカフェ」、「日用品や生鮮品が買えるお店」、「子どもが遊べる公園や屋内施設」、「おしゃれな雑貨・服飾店」の順に多い結果となりました。

駐車場については中心市街地に十分な数が立地しておりますことから、利用しにくさを解消する取組を街づくり会社等と協力しながら検討してまいります。また、飲食店や日用品が買える店の出店について積極的に支援していまいります。

## １２　石巻市の公民館機能について

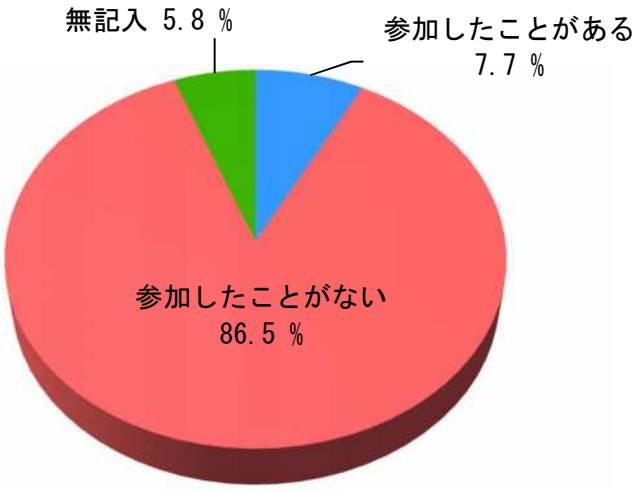
問４９　会議室やホールを予約して公民館を利用したことはありますか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 毎月利用している | 32 名 | 2.9 % |
| 2 | ２～３か月に１回程度利用している | 17 名 | 1.5 % |
| 3 | 半年に１回程度利用している | 33 名 | 3.0 % |
| 4 | １年以上利用していない | 932 名 | 84.4 % |
| | 無記入 | 90 名 | 8.2 % |



問５０　公民館の講座などに参加したことはありますか。１つ選んでください。参加したことがある場合、それはどのような講座でしたか。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 参加したことがある | 85 名 | 7.7 % |
| 2 | 参加したことがない | 955 名 | 86.5 % |
| | 無記入 | 64 名 | 5.8 % |




【参加した講座の名称】
- ●手話講座
- ●パソコン教室
- ●ヨガ教室
- ●フラワーアレンジメント講座

【集計結果の分析】

問４９の公民館の予約利用について、一年以内に「利用している。」と回答した方は、約7.4%で、そのうちの約85%を占めるのが６０歳以上の方でした。

問５０の公民館の講座等のへの参加については、「参加したことがある。」と回答した方は、約7.7%で、そのうちの約74%を占めるのが６０歳以上の方でした。

以上のことから、若年層の公民館に対する認知度を高めることが課題であり、今後若年層を意識した効果的な情報発信方法の在り方を研究し、ＳＮＳ等を活用していくことや、講座の開催情報を積極的に発信してまいります。

**問５１　公民館に要望する事業（講座）があればご記入ください。**

【要望する事業（講座）】
- ●ヨガ教室
- ●料理教室
- ●パソコン教室
- ●陶芸教室

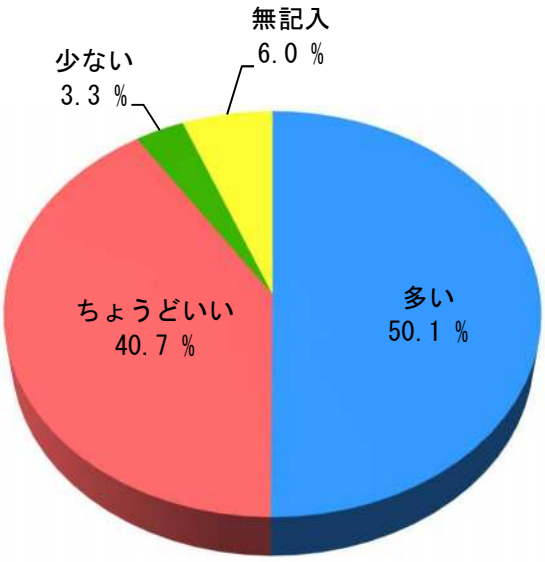
【集計結果の分析】

公民館に要望する事業（講座）については、これまで公民館の講座に「参加したことがない」と回答した方も様々な講座の開設を希望しておりました。
特に、子育てに関する講座やヨガ、料理、パソコン教室の休日開催を望む要望が多い結果となりましたので、今後の講座を企画するうえで参考としてまいります。

## ★　本調査の印象について

**問　調査票の質問数（５１問）について、どう思いましたか。１つ選んでください。**

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 多い | 553 名 | 50.1 % |
| 2 | ちょうどいい | 449 名 | 40.7 % |
| 3 | 少ない | 36 名 | 3.3 % |
| | 無記入 | 66 名 | 6.0 % |




【集計結果の分析】

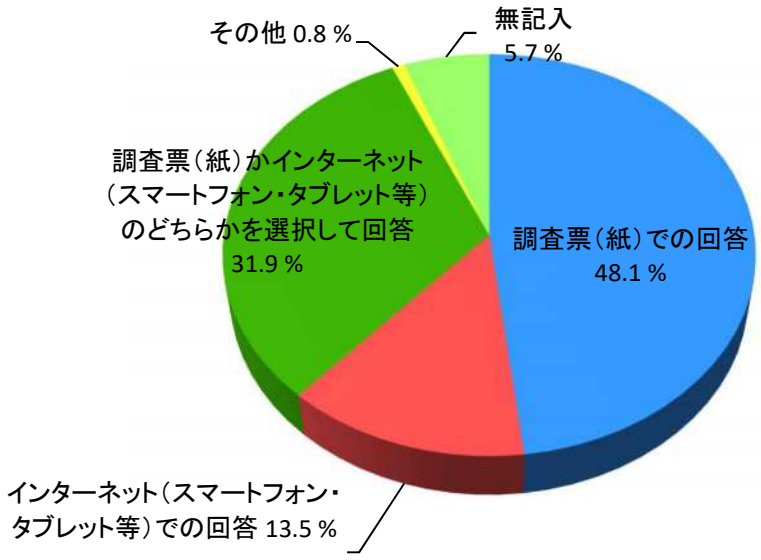
「多い」と回答した方の割合が５割を超える結果となりましたが、前回から質問数を減少したことにより（６３問→５１問）「多い」と回答した方が2.4ポイント減少しました。

調査項目は市の各種施策や計画の指標になっているものもあり、市民の意見を市政に反映させる重要な資料とさせていただいております。

引き続き、調査項目の精査を行いつつも、回答いただく皆様の負担を少しでも軽減するよう、設問数の見直しに努めてまいります。

問　調査に回答する際は、どの手法が望ましいですか。１つ選んでください。

| No. | 項　　目 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|---|
| 1 | 調査票（紙）での回答 | 531 名 | 48.1 % |
| 2 | インターネット（スマートフォン・タブレット等）での回答 | 149 名 | 13.5 % |
| 3 | 調査票（紙）かインターネット（スマートフォン・タブレット等）のどちらかを選択して回答 | 352 名 | 31.9 % |
| 4 | その他 | 9 名 | 0.8 % |
| | 無記入 | 63 名 | 5.7 % |




【その他】
●自由欄が欲しい　●市民意識調査はなくてもよい

【集計結果の分析】

世代別では、５９歳以下では「調査票（紙）かインターネット（スマートフォン・タブレットなど）のどちらかを選択して回答」が多く、その一方、６０歳以上は「調査票（紙）での回答」が多い結果となりました。
様々な世代の方が回答しやすいよう、調査票（紙）とインターネットの両方で回答できる方法を実施しておりますが、引き続き調査方法を検討してまいります。